

教育委員会事務事業 点検・評価報告書

(令和5年度事業対象)



令和6年9月
小松市教育委員会

は じ め に

この報告書は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、小松市教育委員会が令和5年度実施した事務事業の取り組みについて自らその状況について点検し評価を行い、公立小松大学 志村 恵 副学長 にご意見をいただき、まとめたものです。

令和6年9月

小松市教育委員会

【参考】「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

I	学識経験者の意見等	1
II	小松市教育大綱	
1	理念及び方針	4
2	アクションプラン	5
III	事務事業の点検評価	
1	点検評価の概要及び一覧表	7
2	事務事業点検評価票（個別評価票）	
方針1	学校、家庭、地域及び関係機関が連携し、心豊かで思いやりあるひとづくりを推進	
①	家庭や地域の教育力の向上	8
方針2	子どもが健やかに育つ家庭づくりのための「親育ち」を支援	
①	放課後児童クラブによる家庭支援	14
方針3	夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成	
①	未来の創り手となるために必要な資質・能力の確実な育成	15
②	特色ある高等学校教育	20
③	豊かな心の育成	23
方針4	生涯を通して自主的・共同的に学ぶ市民の活動を推進	
①	生涯学習の推進	28
②	生涯読書の推進	32
方針5	学校教育、社会教育等を目的とした公共施設を整備	
①	新しい教育や社会の変化に対応した施設整備	36
②	安全で安心な教育環境の推進	38
③	効果的な学習のための環境整備	40
方針6	ライフステージに応じた健康的な生活習慣と病気に負けない身体づくりを推奨	
①	食育の推進	42

方針 7	学校体育、生涯スポーツを推進、奨励	
①	体力・体づくりの推進	44
②	生涯スポーツの推進	45
方針 8	夢や創造性をもって新たな「知」を創出する科学教育を推進	
①	質の高い科学教育の推進	46
方針 9	伝統文化の継承、音楽活動を支援・奨励	
①	ふるさとの文化の理解と伝承	49
方針 11	自然と共生し、様々な難局を乗り越える人間力を育成	
①	SDGs の推進	51
方針 12	小松と世界をつなぎ持続可能な社会を切り拓く未来志向の活動を推進	
①	グローバルに活躍する人材の育成	52

IV 令和 5 年度小松市教育委員会の活動状況

1	小松市教育委員会	55
2	教育委員会議の実施状況	55
3	総合教育会議の実施状況	55
4	教育委員が出席した主な活動内容	56

I 学識経験者の意見等

小松市教育委員会 点検・評価報告書（令和5年度事業）について下記のとおり講評いたします。

2024年8月28日

氏名 公立小松大学 副学長 志村 恵

意見等
<p>0. はじめに</p> <p>「小松市教育大綱 2020」が掲げる理念・方針、アクションプラン等に則って小松市教育委員会が2023年度に実施した各事業に関して作成された『教育委員会事務事業点検・評価報告書』（令和5年度事業対象）に対して、以下、全体講評および注目すべき事業の成果と課題等について所見を述べる。</p>
<p>1. 全体講評</p> <p>同『報告書』の概要一覧によると、行われた47の事業（昨年度より1事業減）のうち、A評価（十分に達成された）が32事業（68.1%）、B評価（概ね達成できた）が15事業（31.9%）、C評価（やや不十分であった）とD評価（達成できなかった）はそれぞれ0事業（0.0%）であった。昨年度と比べて、A評価の割合がわずかに増えている（プラス1.4%）。「教育大綱」に基づいた5つの理念と12の方針のもと、PDCAサイクルを回しながら実施したその活動全体を通じて、適切かつ丁寧な事業遂行がなされており、そのことが全ての事業を「達成」に至らせたものと言える。</p> <p>第5類に移行したとは言え、コロナ禍の影響がまだ残っている状況の中で、それぞれの事業において創意工夫がなされ、現場の努力とともに適切な進捗管理と事業実施がなされたものと高く評価できる。一方で、KPIの達成が目的化しているかの印象を与える事業や昨年よりも数値を下げた事業が若干あったことは残念である。</p>
<p>2. 注目すべき事業の成果と課題</p> <p>目標の達成が十分になされ、注目すべき事業の一例として、「外国人児童生徒日本</p>

語初期指導（日本語指導、キャリア教育）」（５-③）が挙げられる。同事業においては、２小学校において「日本語通級指導教室」を展開して、日本語指導が必要な児童に対して個別の支援を行い、１小学校において「日本語初期指導教室」を通じて、初来日で日本語が理解できない児童に対して日本語初期指導や日本の学校への適応指導を行い、さらに、日本語通級教室設置校以外でも日本語指導が必要な児童生徒がいる場合、日本語支援員を派遣している。また、保護者に対しても通訳・翻訳支援を行っている。石川県内でも外国にルーツを持つ市民が多い小松市において、このような丁寧な日本語支援事業は極めて重要であり、さらなる充実を期待したい。

他方、「ICT 教育環境推進」（５-③）においては、65 インチ大型モニターを市内 28 校に配備し、また校務用パソコンを市内 32 校に更新整備するなど、ハードの面では充実してきている（Ａ評価）ものの、学校における授業実践においては、まだ活用が十分ではない。高等学校における「ICT を活用した学習の展開」（３-②）における KPI は、「ICT 機器を効率的かつ効果的な工夫をした授業を月 40 回以上行っている」と答える教員の割合を 80％に、「先生方は ICT 機器を用いて効果的な授業を行っているか」との設問に「よくあてはまる」と回答した生徒の割合を 80％と設定している。しかし、2023 年度の実績はそれぞれ 48.3％と 52.8％と目標値を下回っている。また、「ICT を活用した学びの推進」（３-①）では、「ICT を効果的に活用した授業の推進ができている」との設問への回答が 100％との KPI に対して、児童生徒を対象としたアンケート調査での「授業で学習用端末を活用した学習をどのくらい行いましたか」との設問に対する回答「週 3 回以上」「ほぼ毎日」が 53％と低いものとなった。ICT 機器の配置・整備が進む中、授業における活用がまだまだ十分ではない状況が垣間見られるが、教員の多忙化などにより教材研究や自己研修に十分な時間が取れない状況や児童生徒のスキルギャップなどのさまざまな要因があるので、今後は現場の状況や児童生徒のニーズなどに配慮しつつ ICT を活用した授業展開を進める一方、KPI の立て方を含めた事業内容の再検討が必要だと思われる。

なお、「自然の中で五感を使った野外体験」（１-①）は、KPI を「里山自然学校大杉みどりの里」の延べ利用人数 18,000 人以上、延べ宿泊員人数 8,000 人以上としていたが、2023 年度の実績は、延べ人数 12,964 人、延べ宿泊人数は 5,774 人でそれぞれ目標値をかなり下回った（宿泊人数は前年比プラス 466 人）。同施設では立地特性を生かしたさまざまな自然体験プログラムを提供するなど創意工夫をしているが、2024

年1月1日の能登半島地震の被災者の受け入れ検討の影響で施設利用を断ったりした事情があり、目標を下回ったものと推量される。このような不可抗力による（コロナ禍を含む）目標の未達成については、機械的な評価（B評価）を施すのではなく、別の評価基準を当てはめるなど、配慮すべきと思われる。

3. まとめ

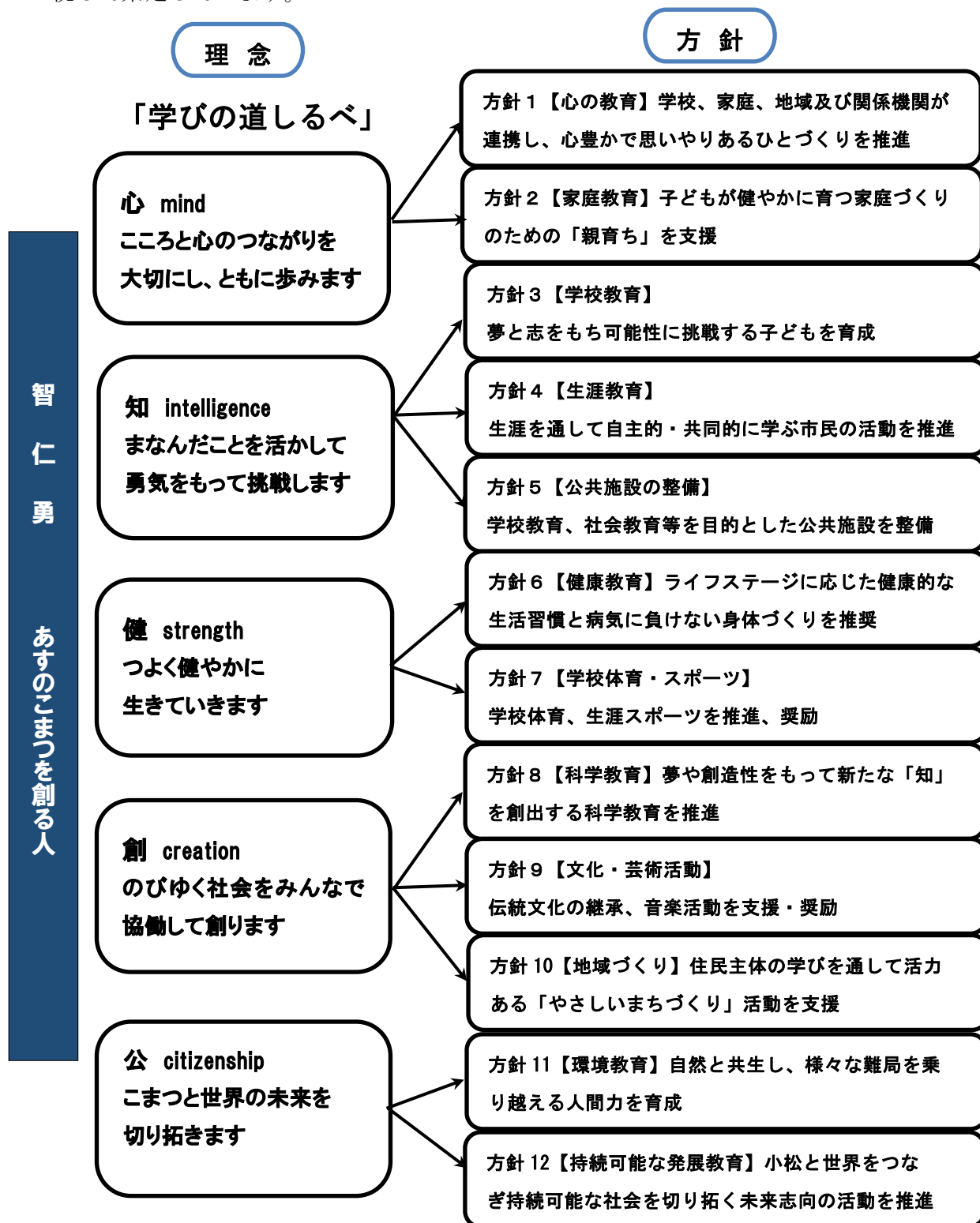
『小松市教育大綱 2020』に謳われている「一人ひとりが生涯にわたり、はつらつと活躍するために必要となる能力を身につけること」、および「一人ひとりの能力を最大限に発揮し、美しいまちと地球を未来に引き継ぐため、多様な人と協働しながら行動すること」という目標をより力強く達成するために、生まれてから亡くなるまでの長い生涯にわたる一貫した生涯教育をベースとしたウェルビーイングの向上、一人ひとりの個性とニーズを大切にする、多様性と持続性を重視した協働と学び合いの推進を期待したい。なお、急速に変化する世界情勢や小松市の社会構造および市民のニーズに対応するため、「教育大綱」自体やその教育理念、さらにはそれに基づく方針や具体的な事業（KPI の設定含む）について、今後点検・見直しが行われることを望む。

Ⅱ 小松市教育大綱

1 理念及び方針

本市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の体系を示すため小松市教育大綱 2020 を令和 2 年 4 月に策定しました。この大綱は、教育に関する基本的な計画として策定するもので、「教育基本法」第 17 条第 2 項に基づく本市の「教育振興基本計画」としても位置付けるものです。

また、この大綱は本市の教育理念である「学びの道しるべ」（令和 2 年 3 月改定）を重視して策定しています。



2 アクションプラン

今後の本市教育行政における具体的施策となる「アクションプラン」を策定し、目標の実現に向けて取り組んでいます。

方針1（心の教育） 学校、家庭、地域及び関係機関が連携し、心豊かで思いやりあるひとづくりを推進
① 家庭や地域の教育力の向上
方針2（家庭教育） 子どもが健やかに育つ家庭づくりのための「親育ち」を支援
① 放課後児童クラブによる家庭支援
方針3（学校教育） 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成
① 未来の創り手となるために必要な資質・能力の確実な育成 ② 特色ある高等学校教育 ③ 豊かな心の育成
方針4（生涯教育） 生涯を通して自主的・共同的に学ぶ市民の活動を推進
① 生涯学習の推進 ② 生涯読書の推進
方針5（公共施設の整備） 学校教育、社会教育等を目的とした公共施設を整備
① 新しい教育や社会の変化に対応した施設整備 ② 安全で安心な教育環境の推進 ③ 効果的な学習のための環境整備
方針6（健康教育） ライフステージに応じた健康的な生活習慣と病気に負けない身体づくりを推奨
① 食育の推進
方針7（学校体育・スポーツ） 学校体育、生涯スポーツを推進、奨励
① 体力・体づくりの推進 ② 生涯スポーツの推進
方針8（科学教育） 夢や創造性をもって新たな「知」を創出する科学教育を推進
① 質の高い科学教育の推進
方針9（文化・芸術活動） 伝統文化の継承、音楽活動を支援・奨励
① ふるさとの文化の理解と伝承
方針10（地域づくり） 住民主体の学びを通して活力ある「やさしいまちづくり」活動を支援
※「こまつ幸せへの道しるべ」に記載
方針11（環境教育） 自然と共生し、様々な難局を乗り越える人間力を育成
① S D G s の推進
方針12（持続可能な発展教育） 小松と世界をつなぎ持続可能な社会を切り拓く未来志向の活動を推進
① グローバルに活躍する人材の育成

Ⅲ 事務事業の点検評価

1 点検評価の概要及び一覧表

○点検評価の概要

教育大綱の実施計画に基づいた47事業について、教育委員会において点検評価を行い、次のA～Dの4段階で達成度を評価しました。

達成度	評価結果	
	事業数	割合(対全事業数)
「A」：十分達成できた	32 事業	68.09 %
「B」：概ね達成できた	15 事業	31.91 %
「C」：やや不十分であった	0 事業	0.00 %
「D」：達成できなかった	0 事業	0.00 %
計	47 事業	100.00 %

○点検評価一覧表

方針1 学校、家庭、地域及び関係機関が連携し、心豊かで思いやりあるひとづくりを推進

	担当課	評価	頁
①家庭や地域の教育力の向上			
・グッドマナーキャンペーン事業	生涯学習課	A	8
・少年育成センター事業	生涯学習課	A	9
・小松っ子を育てる市民会議	生涯学習課	A	10
・小松市スマイルハート賞 小松市社会教育賞	生涯学習課	A	11
・自然の中で五感を使った野外体験	農林水産課	B	12
・西俣自然教室管理運営事業	農山村創生室	A	13

方針2 子どもが健やかに育つ家庭づくりのための「親育ち」を支援

	担当課	評価	頁
①放課後児童クラブによる家庭支援			
・放課後児童クラブ運営事業	生涯学習課	A	14

方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成

	担当課	評価	頁
①未来の創り手となるために必要な資質・能力の確実な育成			
・学校評価システム	学校教育課	B	15
・学力向上事業	学校教育課	B	16
・学校研究支援事業	学校教育課	B	17
・ICTを活用した学びの推進	教育研究センター	B	18
・研究、研修事業	教育研究センター	A	19
②特色ある高等学校教育			
・総合的な探究の時間の充実による生徒の主体性・社会性の育成	小松市立高校	B	20
・ICTを活用した学習の展開	小松市立高校	B	21
・英語力・コミュニケーション能力の育成	小松市立高校	A	22
③豊かな心の育成			
・道徳教育推進事業	学校教育課	A	23
・キャリア教育推進事業	学校教育課	B	24
・いじめ・不登校対応事業	学校教育課	B	25
・学校及び家庭との連携を目指した教育相談体制づくり	教育研究センター	A	26
・令和6年小松市成人式～二十歳のつどい～	生涯学習課	A	27

方針4 生涯を通して自主的・共同的に学ぶ市民の活動を推進

	担当課	評価	頁
①生涯学習の推進			
・公民館活動推進事業	生涯学習課	B	28
・こまつ市民大学(第6期)	生涯学習課	A	29
・生涯学習施設の運営	生涯学習課	A	30
・青少年育成団体活動への支援事業	生涯学習課	A	31
②生涯読書の推進			
・読書活動の推進	図書館	B	32
・読書活動の推進(おはなし会)	空とこども絵本館	A	33
・読書活動の推進(出張絵本館)	空とこども絵本館	A	34
・読書活動の推進(よんでよんで)	空とこども絵本館	A	35

方針5 学校教育、社会教育等を目的とした公共施設を整備

	担当課	評価	頁
①新しい教育や社会の変化に対応した施設整備			
・学校施設のリニューアル(小中学校校舎等改修費)	教育庶務課	A	36
・松陽中学校整備費	教育庶務課	A	37
②安全で安心な教育環境の推進			
・教育環境の改善及び充実(小中学校校舎等営繕費)	教育庶務課	A	38
・教育環境の改善及び充実(安全・安心な学校づくり費)	教育庶務課	A	39
③効果的な学習のための環境整備			
・ICT教育環境推進	教育研究センター	A	40
・外国人児童生徒日本語初期指導(日本語指導、キャリア教育)	学校教育課	A	41

方針6 ライフステージに応じた健康的な生活習慣と病気に負けない身体づくりを推奨

	担当課	評価	頁
①食育の推進			
・家庭、地域と連携した食育の推進	学校教育課	A	42
・おいしい学校給食の提供	学校教育課	A	43

方針7 学校体育、生涯スポーツを推進、奨励

	担当課	評価	頁
①体力・体づくりの推進			
・体育教育推進事業	学校教育課	A	44
②生涯スポーツの推進			
・学校体育・健康教育推進事業	学校教育課	A	45

方針8 夢や創造性をもって新たな「知」を創出する科学教育を推進

	担当課	評価	頁
①質の高い科学教育の推進			
・「楽しむ、学ぶ、挑む」サイエンスの推進	ひととものづくり科学館	A	46
・学校とひととものづくり科学館、教育研究センターの連携(教育施設としての活用)	ひととものづくり科学館	A	47
・学校とひととものづくり科学館と教育研究センターの連携	教育研究センター	B	48

方針9 伝統文化の継承、音楽活動を支援・奨励

	担当課	評価	頁
①ふるさとの文化の理解と伝承			
・子供歌舞伎勸進帳上演事業	生涯学習課	A	49
・郷土の歴史・文化の継承と啓発活動(市史編纂事業)	図書館	A	50

方針11 自然と共生し、様々な難局を乗り越える人間力を育成

	担当課	評価	頁
①SDGsの推進			
・SDGs推進事業	学校教育課	B	51

方針12 小松と世界をつなぎ持続可能な社会を切り拓く未来志向の活動を推進

	担当課	評価	頁
①グローバルに活躍する人材の育成			
・国際都市こまつ青少年交流事業	生涯学習課	B	52
・留学生支援事業	生涯学習課	A	53
・英語教育推進事業	学校教育課	B	54

点検評価票(個別評価票)の「Check(評価)」欄の記載について、実施できた内容に○、不十分だった内容に△、新型コロナウイルス感染症による影響により実施できなかった内容に＊をつけています。

点検評価票

アクションプラン区分	方針1 学校、家庭、地域及び関係機関が連携し、心豊かで思いやりあるひとづくりを推進
	1-① 家庭や地域の教育力の向上

P l a n (計画)	事業名	グッドマナーキャンペーン事業	新規・継続	担当課
			継続	生涯学習課
	目標・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年の公共マナーに対する規範意識の向上 ・ 交通ルール遵守の呼び掛け 		
	アクションプラン指標	延べ参加者協力者数 R3年度：1,600人 → R6年度：1,800人		
D o (実行)	事業内容	石川県心の教育推進協議会が主催するグッドマナーキャンペーンに小松市も賛同し、学校や心の教育を推進する団体と連携し、声掛け運動を展開するもの。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ マナー指導、あいさつ運動 9月20日(水) 21日(木) 22日(金) 市内3駅…小松駅：57人 栗津駅：37人 明峰駅：26人 【参加した団体】 石川県青少年育成推進指導員・小松市校下女性協議会 小松市社会教育委員・小松市少年補導連絡協議会 小松市立学校PTA連合会・小松地区更生保護女性会 小松っ子を育てる市民会議・小松能美保護区保護司会小松支部 小松市少年育成センター育成員 計9団体 9月20日(水)～9月22日(金) (強化週間) 市内小中高等学校…強化週間中の自主的な実施 		
C h e c k (評価)	点検・評価	○学校や地域と連携し、児童・生徒や市民に対して、公共マナー向上と交通ルールの遵守への意識啓発という事業の目的を果たした。	評価(達成度)	
			A	
			A	十分達成
			B	おおむね達成
			C	やや不十分
			D	達成できず
A (改善)	課題	今後も関係団体や協力機関等と連携し、参加者の確保及び事業内容の見直しを行いながら、継続的に実施していきたい。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針1 学校、家庭、地域及び関係機関が連携し、心豊かで思いやりあるひとづくりを推進
	1-① 家庭や地域の教育力の向上

P l a n (計画)	事業名	少年育成センター事業	新規・継続	担当課
			継続	生涯学習課
	目標・目的	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達の健全育成活動の総合的な推進 子どもの非行防止と地域の見守り体制の連携強化 		
	アクションプラン指標	注意件数 R3 : 170件 → R6 : 100件		
D o (実行)	事業内容	子ども達の健全な育成・非行防止を目的とした、育成員による日々の巡回パトロールを行う。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・お旅まつり期間及び長期休暇期間（春・夏・冬休み）に巡回活動を実施。 ・4月 育成員委嘱（校区育成員58人、中央育成員50人） ・5月 第1回研修会 ・6月 少年補導センター所長会議 県青少年補導センター連絡協議会総会 ・7月 青少年の非行・被害防止全国強化月間 第2回研修会 石川県青少年健全育成「南加賀ブロック会議」 		
C h e c k (評価)	点検・評価	○声かけ件数 32件 アクションプラン指標に掲げた目標を大幅に上回っている。 (声かけ件数が減少した。)		評価(達成度)
				A
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
				D 達成できず
A (改善)	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の取り巻く環境が変化している為、見守り活動のあり方について協議する必要がある。 		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針1 学校、家庭、地域及び関係機関が連携し、心豊かで思いやりあるひとづくりを推進
	1-① 家庭や地域の教育力の向上

P l a n (計画)	事業名	小松っ子を育てる市民会議	新規・継続	担当課
			継続	生涯学習課
	目標・目的	・オールこまつによる青少年の健全育成 ・青少年健全育成推進団体の連携強化 ・家庭と地域の教育力の向上		
	アクションプラン指標	青少年健全育成推進団体の連携を図り、活動の共通化と相乗効果を目指す		
D o (実行)	事業内容	小松の子ども達の指針となるべく制定された「学びの道しるべ」の普及啓発を行うと共に、子どもの健全育成に関する問題意識の共通化を図る。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・4月 第1回役員会開催 ・5月 小松っ子を育てる市民会議総会 ・6月 社会を明るくする運動啓発標語審査会 フローラルこまつの取り組み（1回目） ・7月 社会を明るくする運動啓発標語表彰式 ・8月 小松っ子未来郵便配付 ・9月 第2回役員会、小松っ子未来郵便実施（～3月） ・10月 第1回広報委員会 ・11月 フローラルこまつの取り組み（2回目） 第3回役員会 ・12月 全体会 ・2月 第2回広報委員会 ・3月 第4回役員会、小松っ子機関誌第43号発行 小松っ子未来郵便郵送		
C h e c k (評価)	点検・評価	○小学4年生を対象に、8年後の18歳になった自分へ手紙を書いて送る「小松っ子未来郵便」を実施。子ども達が自分自身のキャリアを考える事業を展開することができた。	評価(達成度)	
			A	
			A 十分達成	
			B おおむね達成	
			C やや不十分	
A (改善)	課題	さらなる質の高い健全育成実現のため、より一層市民への訴求効果を高める活動を展開したい。	D 達成できず	
用語説明		用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針1 学校、家庭、地域及び関係機関が連携し、心豊かで思いやりあるひとづくりを推進
	1-① 家庭や地域の教育力の向上

P l a n (計画)	事業名	小松市スマイルハート賞 小松市社会教育賞	新規・継続	担当課
			継続	生涯学習課
	目標・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりの心や規範意識、社会貢献意欲の育成 ・社会教育の振興に対する功績を評価・顕彰 ・子育てに関する問題意識の共有 ・地域コミュニティの活性化 		
	アクションプラン指標	児童・生徒の活動を表彰することにより、思いやりの心や地域を愛する気持ちを育むとともに、自ら目標を設定し振り返り、行動できる青少年の育成を図る。		
D o (実行)	事業内容	小松市スマイルハート賞 →児童・生徒の個人及び社会の幸福の実現のための主体的な取組みを表彰する。 小松市社会教育賞 →本市の社会教育関係者及び社会教育関係団体で、社会教育の振興に尽力し、地域社会の発展に貢献したものを表彰する。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8月 被表彰者の推薦依頼 ・ 11月1日 選考委員会開催 ・ 11月13日 教育委員会会議・被表彰者決定 スマイルハート賞 2団体・1個人 社会教育賞 3個人 ・ 11月21日 福祉文教常任委員会 被表彰者について報告 ⇒ 報道発表 ・ 1月27日 表彰式 		
C h e c k (評価)	点検・評価	○スマイルハート賞受賞の児童生徒が表彰式（社会教育大会）において、パワーポイントを使い、活動内容を発表し、活動を広く地域の人と共有することができた。 ○表彰式とあわせ、小松市民病院 岡 靖子医師（産婦人科担当部長）の基調講演を実施し、多くの参加があった。		評価(達成度)
				A
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
				D 達成できず
A (改善)	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら目標を設定し振り返り、行動した事例を共有し、子ども達の活動の意欲へとつなげたい。 ・草の根的な活動を学校・地域において継続的に行っている方々にも光を当て、多くの人に知ってもらい、子ども達に良き手本として示したい。 		
用語説明		用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針1 学校、家庭、地域及び関係機関が連携し、心豊かで思いやりあるひとづくりを推進
	1ー① 家庭や地域の教育力の向上

P l a n (計画)	事業名	自然の中で五感を使った野外体験	新規・継続	担当課																			
			継続	農林水産課																			
D o (実行)	目標・目的	大杉で自然体験・集団行動を学び、たくましく生きる力を育む																					
	アクションプラン指標	延べ利用人数 2022年 → 18,000人以上 延べ宿泊人数 2022年 → 8,000人以上																					
D o (実行)	事業内容	大杉の豊かな自然をいかした四季折々の自然体験の機会を提供し、山や里山で耳や目、鼻、手足、味覚等の五感を研ぎ済ます拠点として、交流人口の拡大を目指す。 																					
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<div>・令和5年度 小中学校 利用実績 市内小中学校利用 30校 延べ利用人数 3,065人 延べ宿泊人数 1,442人 市外小中学校利用 27校 延べ利用人数 4,177人 延べ宿泊人数 2,156人</div> <div>・利用実績<table><tr><td></td><td>R3年度</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td></tr><tr><td>団体数</td><td>228団体</td><td>166団体</td><td>140団体</td></tr><tr><td>延人数</td><td>9,593人</td><td>13,927人</td><td>12,964人</td></tr><tr><td>延宿泊人数</td><td>1,413人</td><td>5,308人</td><td>5,774人</td></tr><tr><td>日帰り人数</td><td>6,930人</td><td>4,845人</td><td>2,731人</td></tr></table></div> <div>・歴史・自然が豊かな里山で四季折々を感じることができる自然体験活動を行った。（登山・ウォークラリー・野外炊さん・岩魚つかみ・川遊び・キャンプ・クロスカントリースキー・そり遊び・かんじき・木竹工等）</div>				R3年度	R4年度	R5年度	団体数	228団体	166団体	140団体	延人数	9,593人	13,927人	12,964人	延宿泊人数	1,413人	5,308人	5,774人	日帰り人数	6,930人	4,845人
	R3年度	R4年度	R5年度																				
団体数	228団体	166団体	140団体																				
延人数	9,593人	13,927人	12,964人																				
延宿泊人数	1,413人	5,308人	5,774人																				
日帰り人数	6,930人	4,845人	2,731人																				
C h e c k (評価)	点検・評価	○事業を継続実施できた。但し、能登半島地震による避難者受入れ検討場所となり、1月下旬から年度末までの予約を断った。2月中旬に受入れしないことが決定し、予約受付を再開したが、暫くで雪シーズンが終わり、利用者数減少となった。 ○主催事業を実施し、豊かな自然を生かした親子活動を行い、親子の絆を深める活動ができた。 ○自然にふれあい、活動を通じて、共助の心と生きる力を育むと共に、健康の維持・増進に寄与できた。 ○感染症対策や熊除け等の安全対策をとり、主催事業の参加者募集案内、市内外の小中学校への利用案内や保育園等への冬期そり遊びの利用案内を行ない、利用者の確保を図った。		評価(達成度)																			
				<div>B</div> <table><tr><td>A</td><td>十分達成</td></tr><tr><td>B</td><td>おおむね達成</td></tr><tr><td>C</td><td>やや不十分</td></tr><tr><td>D</td><td>達成できず</td></tr></table>	A	十分達成	B	おおむね達成	C	やや不十分	D	達成できず											
A	十分達成																						
B	おおむね達成																						
C	やや不十分																						
D	達成できず																						
A (改善)	課題	<div>・施設管理体制（災害・経年劣化等による施設・設備の故障・危険箇所の修繕・解消）を徹底し、安全安心な施設環境を整備・維持するための予算を確保していくこと。</div> <div>・職員の高齢化が進む中で、繁忙期の複数団体利用時に諸活動に対応（準備・片付け・指導・支援）する指導員、施設運営職員及び宿直者を確保・維持していくこと。</div> <div>・様々なケースに対応するため、職員の技能・知識の取得・向上と心の通った接遇を継続・継承していくこと。</div>																					
用語説明		用語	説明																				

点検評価票

アクションプラン区分	方針1 学校、家庭、地域及び関係機関が連携し、心豊かで思いやりあるひとづくりを推進
	1ー① 家庭や地域の教育力の向上

P l a n (計画)	事業名	西俣自然教室管理運営事業	新規・継続	担当課
			継続	農山村創生室
	目標・目的	豊かな自然環境の中で、川遊びや登山などのレクリエーションを通し、青少年の健全な育成を図ると同時に交流人口の拡大や地域の活性化を目標とする。		
	アクションプラン指標	農林水産課所管施設交流人口（木場潟公園・道の駅こまつ木場潟・里山健康学校せせらぎの郷・西俣自然教室・西俣キャンプ場・憩いの森・里山自然学校こまつ滝ヶ原・里山健康学校大杉みどりの里） 120万人（R3実績）→ 200万人（R7）		
D o (実行)	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・山峡の豊かな自然環境の中で、家族や青少年の諸団体が、集団宿泊生活、レクリエーションを通して、相互の心のふれあいを深め、もって青少年の健全育成を推進する。 ・利用者の安全確保に留意すると共に、施設の環境保全、保安警備に努め、良好な施設の管理を行う。 		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	【利用人数の推移】 （3ヶ年） 令和3年度 239人 令和4年度 235人 令和5年度 455人		
C h e c k (評価)	点検・評価	○新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後により、市民団体による活動利用が回復したことで、利用者数は大幅に増加した。 ○引き続き、新型コロナウイルス感染防止策として、独自のチェックシートを作成し、利用者全員の住所、氏名、電話番号の把握、体温チェック、手指消毒など感染対策を徹底した。		評価(達成度)
				A
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
				D 達成できず
A (改善)	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・西俣を中心とした活性化の取り組みを、隣接するキャンプ場と一体的に推進し、利用者の増加、周知による、地域活性化を目指していく。 ・安全・安心・快適な利用ができるよう、今後も適切な保守・修繕を行う。 ・施設のバリアフリー化など、更なる利用者サービスの向上を図る。 		
用語説明		用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針2 子どもが健やかに育つ家庭づくりのための「親育ち」を支援
	2-① 放課後児童クラブによる家庭支援

P l a n (計画)	事業名	放課後児童クラブ運営事業	新規・継続	担当課
			継続	生涯学習課
	目標・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の就労支援と放課後における児童の安全・安心な居場所の確保 ・子どもの発達段階を踏まえた健全な育成への支援 ・放課後児童クラブの運営及び質の向上 		
	アクションプラン指標	自己評価Aのクラブの割合100%		
D o (実行)	事業内容	<p>日中に保護者が家庭にいない児童に対し、放課後の遊び・生活の場を提供し、子どもの状況や発達段階を踏まえながら、健全な育成を支援する。</p>		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<p>質の向上へ向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営基準に基づくクラブの自己評価及び、担当課による実地調査の実施（35クラブ） ・支援員の企画による研修会の実施 ・県等が実施する研修会への参加 ・放課後児童クラブ連絡協議会を対面形式で開催（学校と児童クラブで課題を共有） 		
C h e c k (評価)	点検・評価	<p>○全てのクラブにおいて着実に質の向上を図った。 自己評価A：25クラブ 自己評価B：10クラブ</p> <p>○市内クラブの支援員がつどう研修会を開いた。支援員の交流の機会を設けることができたと同時に、クラブ間で議論することで切磋琢磨し支援員の意識向上を図った。</p>		評価(達成度)
				A
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
				D 達成できず
A (改善)	課題	<p>求められる児童クラブの実現に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価、実地調査の実施方法の見直し（重点調査項目の設定等） ・支援員の認定資格取得の促進 ・児童数の推移に対応した施設整備及び運営体制の確保 		
用語説明		用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成
	3-① 未来の創り手となるために必要な資質・能力の確実な育成

P l a n (計画)	事業名	学校評価システム	新規・継続	担当課
			継続	学校教育課
	目標・目的	各学校が目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図る		
	アクションプラン指標	全校における学校評価システムの実施・検証・改善の充実		
D o (実行)	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 客観的に現状を分析する学校評価（学校評価1）の作成 人材育成のための学校評価（学校評価2）の作成 児童生徒、保護者、教職員アンケートの実施 		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<ul style="list-style-type: none"> 全ての学校で、小松市の重点目標を踏まえた校長ビジョンの具現化のための学校評価が作成され、定期的に評価・改善を行った。 学校のホームページへの掲載により、学校の取組内容や評価結果について広く周知された。 児童生徒、保護者、教職員アンケートを実施し、改善点を明確にすることができた。 		
C h e c k (評価)	点検・評価	<p>○学校が重点的に取り組んだ取組について、児童生徒及び保護者、教職員アンケートを評価・改善に生かすことができた。</p> <p>○学校関係者評価を通じて、保護者や地域住民等が学校運営について意見交換することで、よりよい改善策を生み出すことができた。</p>	評価(達成度)	
			B	
			A	十分達成
			B	おおむね達成
			C	やや不十分
			D	達成できず
A (改善)	課題	学校評価システムのPDCAサイクルをもとに、校長ビジョン具現化のための組織的・継続的な改善が必要。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成
	3-① 未来の創り手となるために必要な資質・能力の確実な育成

P l a n (計画)	事業名	学力向上事業	新規・継続	担当課
			継続	学校教育課
	目標・目的	教師の授業改善や指導力向上による、児童生徒の確かな学力の向上		
	アクションプラン指標	「教科の内容がわかる」児童生徒の割合 R3：80%→R6：95%		
D o (実行)	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・計画訪問や要請訪問時における授業への指導助言 ・学校力向上ロードマップの策定 ・主任指導主事（8名）による要請訪問 		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の学校研究に沿ったそれぞれの授業に対し、市「目指す授業」に基づいた指導助言を行うことができた。 ・学校力向上ロードマップを使って、組織的、計画的なPDCAサイクルが確立され、学校ぐるみの学力向上策につながった。 ・主任指導主事（8名）による学校訪問を年間を通じて行い、授業づくりや集団づくりへの指導・助言を行った。 		
C h e c k (評価)	点検・評価	<p>○子供たちに確かな資質・能力を育成するために、各学校が学力向上に向けて検証を行い、改善を図った。</p> <p>○主任指導主事の指導助言により、若手教員の授業力向上が見られた。</p> <p>△「教科の内容がわかる」小：90.2%、中：79.3% (R5国・県質問紙調査)で小中学校ともに数値が下がっており課題がある。</p>	評価(達成度)	
			B	
			A	十分達成
			B	おおむね達成
			C	やや不十分
			D	達成できず
A c t i o n (改善)	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で子供たちに確かな資質・能力を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」の充実に向けた指導の工夫がより一層求められる。 ・特に中学校において、生徒にわかった、できたを実感させる授業づくりが必要である。 		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成
	3-① 未来の創り手となるために必要な資質・能力の確実な育成

P l a n (計画)	事業名	学校研究支援事業	新規・継続	担当課
			継続	学校教育課
	目標・目的	教師の授業改善や指導力向上による、児童生徒の確かな学力の向上		
	アクションプラン指標	子供達が学びを実感できる授業の実施・検証・改善		
D o (実行)	事業内容	小松市の目指す授業づくりを中心に研究を行う指定校が、効果的な実践をすることで、授業改善を図る。学びの系統性を意識した授業づくりを進め、基礎基本の確実な定着及び思考力の育成を図る。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・「子供たちが主体的に学び、資質・能力を確実に身につける授業を創る」の実現に向け、今年度の重点を「学びの見取りを生かした指導の工夫」と定め、市内での共通実践を図った。 ・校長会・教頭会、教務主任研修・研究主任研修等で目指す授業像についての説明を行った。 ・市内研究指定校の研究発表会を市教委の悉皆研修に位置づけ、良い授業のモデルを市内の教職員に対して提示した。 		
C h e c k (評価)	点検・評価	<p>○市内研究推進校の授業公開によって、具体的な授業像を市内の教員が共通理解し、指導の改善に活用された。</p> <p>△「令和の日本型学校教育」の構築を目指して、全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた共通実践を市内で図る必要がある。</p>	評価(達成度)	
			B	
			A	十分達成
			B	おおむね達成
			C	やや不十分
			D	達成できず
A c t i o n (改善)	課題	資質、能力を確実に身に付けるために、「主体的・対話的で深い学び」の一層の充実に向けた授業づくりが必要である。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成
	3-① 未来の創り手となるために必要な資質・能力の確実な育成

P l a n (計画)	事業名	ICTを活用した学びの推進	新規・継続	担当課
			継続	教育研究センター
	目標・目的	ICTを効果的に活用した授業づくりを推進する。		
D o (実行)	アクションプラン指標	ICTを効果的に活用した授業の推進ができています。 R3 : 80% → R6 : 100%		
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「GIGAスクール環境を活かした学びの推進事業」研究指定校によるICTを効果的に活用した授業実践 ・「授業開発推進チーム」による学習用端末活用の効果的活用法の開発 ・ICT活用研修会の開催 ・GIGA校内研修推進リーダー担当者会の開催 ・ICTインストラクターによるサポート訪問 		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒アンケート「授業で学習用端末を使うのは勉強に役に立つと思いますか」に対し肯定的回答92%、「授業で学習用端末を活用した学習をどのくらい行いましたか」に対し「週3回以上」「ほぼ毎日」の回答は53% ・「GIGAスクール環境を活かした学びの推進事業」研究指定校において公開型研修会を開催するとともに、「授業開発推進チーム」において、学習用端末の効果的活用法について研究を進め、市内教員対象に公開研究会を開催した。 ・新規採用教職員及び市外からの異動教職員を対象に、学習支援ソフト及びAI型学習ドリルの研修会を開催した。 ・MicrosoftTeams研修会を3回開催し、各学校において伝達講習も行った。 ・各学校のGIGA研修推進リーダーの担当者会を開催した。 ・ICTインストラクターの定期サポート訪問を実施した。 		
C h e c k (評価)	点検・評価	<p>△児童生徒アンケートから、学習用端末の活用により学習効果があると感じているものの、授業における学習用端末の活用頻度は十分とは言えないという結果が得られた。</p> <p>○「GIGAスクール環境を活かした学びの推進事業」では、研究指定校においてICTを効果的に活用した授業実践を進めることができた。</p> <p>○授業開発推進チーム公開授業では、学習用端末の活用や教科の授業づくりについて深く協議することができた。</p> <p>○MicrosoftTeams活用研修会を3回開催し、各学校において受講者による伝達講習を行った。</p> <p>○GIGA校内研修推進リーダー担当者会を開催し、活用推進のための取組について情報共有を行った。</p> <p>○ICTインストラクターのサポート訪問により、各学校の実態に応じた授業支援や研修を実施することができた。</p>		評価(達成度)
				<p>B</p> <p>A 十分達成</p> <p>B おおむね達成</p> <p>C やや不十分</p> <p>D 達成できず</p>
A (改善)	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学習用端末の日常的な活用について、さらなる活用促進に向けて取り組んでいく必要がある。 ・学校の活用状況を踏まえ、学習指導要領の具現化と校務DXを定期的に推進していく。 		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成
	3-① 未来の創り手となるために必要な資質・能力の確実な育成

P l a n (計画)	事業名	研究、研修事業	新規・継続	担当課
			継続	教育研究センター
	目標・目的	教職員の授業力向上及び指導力向上		
	アクションプラン指標	研究会、研修会参加者の満足度が100%		
D o (実行)	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教科研究会において、授業づくりを研究し市内教員に授業公開する。 ・授業改善、児童生徒理解における指導力向上をめざした研修を実施する。 		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<p>○教科研究会の運営（小学校算数、中学校数学・英語で年間各7回程）</p> <p>○夏季教職員研修として、以下の4講座を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒理解講座（参加人数：175人） 講演「教室で行う子どものアセスメント(理解・発見)とその支援」 大阪学院大学教育発達支援センター 講師 山田 章 氏 ・情報活用能力（参加人数：90人） 講演「各教科等横断的な視点での情報活用能力の育成～GIGA端末活用を視野に入れて～」 放送大学 教授 中川 一史 氏 ・授業づくりⅠ（参加人数：88人） 講演「小中連携における指導の継続性のポイント」 前文部科学省初等中等教育局 視学官 直山 木綿子 氏 ・授業づくりⅡ（参加人数：148人） 講演「学びの見取りを生かした授業づくり」 京都大学大学院 准教授 石井 英真 氏 		
C h e c k (評価)	点検・評価	<p>○教科研究会では、市内小・中・義務教育学校教員に授業を公開し、授業について協議する機会となり、各教科の特質に合わせた指導と評価について理解を深めることができた。</p> <p>○各種研修講座においては、参加した教員の99%から「内容が充実したものであった」などの肯定的な意見が聞かれ、大変有意義であった。</p> <p>○地域理解講座(初任者研修)では、小松市外在住の教員も多く、小松のことについて深く学ぶことができた。</p>	評価(達成度)	
			A	
			A	十分達成
			B	おおむね達成
			C	やや不十分
			D	達成できず
A c t i o n (改善)	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科研究会では、授業力向上の良い機会と捉えている。今後も本市の授業改善における課題を踏まえて継続していく。 ・学校訪問等では、各種研修の成果は見られるものの、まだまだ課題も少なくない。今後も本市の教育課題を踏まえ、研修内容の充実を図っていく。 		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成
	3-② 特色ある高等学校教育

P l a n (計画)	事業名	総合的な探究の時間の [※] 充実による生徒の主体性・社会性の育成	新規・継続	担当課
			継続	小松市立高校
	目標・目的	自己の在り方生き方を考えながら、課題の発見や解決に必要な知識・技能を身に付けるとともに、より良い社会を実現しようとする態度を養う。		
	アクションプラン指標	探究活動を通して他者と協働して課題解決に向けて粘り強く取り組んだ生徒の割合が80%以上		
D o (実行)	事業内容	「総合的な探究の時間」において、地域へ出向き、地域が抱えている課題を発見するとともに、フィールドワークや調べ学習等を通して、課題解決に向けて自律的・協働的に取り組む。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<ul style="list-style-type: none">・1年生は、小松のものづくりや伝統工芸などを体感する「GEMBAプロジェクト」に参加したほか、市内企業を訪問するフィールドワークも実施し、社会の課題や解決策を考え話し合い、ポスター制作や発表ができた。・2年生は、解決すべきテーマを自分で決め、立案から実践、発表まで主体的かつ協働的に取り組むことができた。・「総合的な探究の時間における生徒の主体的な取り組みを通して、生徒の表現力や自己発信力が成長した」と思う（よくあてはまる、あてはまると回答した）生徒の割合は80.4%、教員78.60%と高い。		
C h e c k (評価)	点検・評価	○地域へ出掛けて企業の皆さんや地域の方々と関わることができ、地域の産業や文化についての理解が深まった。自らが地域を盛り上げたい、小松の良さを発信したいという生徒が多く、その実現のために自分たちができることを考え、主体的、協働的に取り組めた。	評価(達成度)	
			B	
			A	十分達成
			B	おおむね達成
			C	やや不十分
D	達成できず			
A (改善)	課題	探究活動の効果を高め、生徒が充実感や達成感を得られるよう、課題への着眼点や、課題の特定や解決の方法、情報収集のやり方や活用法を事前に学ぶなど、学習スケジュールの見直しが必要。		
用語説明	用語	説明		
	総合的な探究の時間 [※]	生徒が主体的に課題を設定し、情報の収集や整理、分析を行いながら解を求め、資質能力を高めることを目的とする。		

点検評価票

アクションプラン区分	方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成
	3-② 特色ある高等学校教育

P l a n (計画)	事業名	I C Tを活用した学習の展開	新規・継続	担当課
			継続	小松市立高校
	目標・目的	情報活用能力を育成するとともに、I C Tを適切に活用した学習活動の充実を図り、各教科等における主体的・対話的で深い学びへとつなげていく。		
	アクションプラン指標	<ul style="list-style-type: none"> ・「I C T機器を積極的に活用して、効率的かつ効果的な工夫した授業を月40回以上行っている」と答えた教員の割合 R3 : 45%→R6 : 80% ・「先生方はI C T機器を用いて効果的な授業を行っているか」の問いに「よくあてはまる」と答えた生徒の割合 R3 : 35%→R6 : 80% 		
D o (実行)	事業内容	タブレットやプロジェクター等のI C T機器を効果的に利活用し、生徒の理解度や知識の向上、学習意欲が高まる授業を実践する。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・「I C T機器を積極的に活用して、効率的かつ効果的な工夫した授業を月40回以上行っている」と答えた教員の割合 実績 令和3年 : 43.2% → 令和4年 : 41.7% → 令和5年 : 48.3% ・「先生方はI C T機器を用いて効果的な授業を行っているか」の問いに「よくあてはまる」と答えた生徒の割合 実績 令和3年 : 40.6% → 令和4年 : 43.8% → 令和5年 : 52.8% ・令和4年6月 iPad用タッチペン貸与 (現 : 2.3年生) ・令和4年8月 情報処理室に大型ディスプレイ設置 ・令和5年2月 教室に電子黒板機能付きプロジェクターを整備 ・令和5年3月 A p p l e T V 5台を追加整備 		
C h e c k (評価)	点検・評価	○R4年度 全教室に整備した電子黒板機能搭載プロジェクターおよびA p p l e T V等の活用により、視覚的にも理解を深められ、指導力の向上および生徒のより深い学びに繋がる環境の整備ができた。		評価(達成度)
				B
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
				D 達成できず
A (改善)	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい機器の効果的な活用方法について研究し、更なる「協働的な学び」につなげる工夫を図っていく。 ・I C Tを活用した授業の工夫や学習アプリ等の活用により、生徒の「学びに向かう力」を高めていく。 		
用語説明		用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成
	3-② 特色ある高等学校教育

P l a n (計画)	事業名	英語力・コミュニケーション能力の育成		新規・継続	担当課																															
				継続	小松市立高校																															
	目標・目的	グローバル社会に対応できる自己発信力を高めるため、英語コミュニケーション能力の向上を目指す																																		
	アクションプラン指標	英語検定「準2級相当」※以上取得率（3年生） R3：45%→R6：60%																																		
D o (実行)	事業内容	グローバル社会に役立つ人材づくりの第一歩として、英語力向上のため英検「準2級相当」以上の取得者を増やす																																		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<div>・英語検定「準2級相当」以上を取得した生徒数（3年生） 実績 令和5年度 67.5%</div> <table><tr><td></td><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td><td>合計</td><td>全生徒数</td><td>全生徒取得率</td><td>3年取得率</td></tr><tr><td>令和3年度</td><td>41人</td><td>88人</td><td>83人</td><td>212人</td><td>493人</td><td>43.0%</td><td>43.9%</td></tr><tr><td>令和4年度</td><td>50人</td><td>104人</td><td>89人</td><td>243人</td><td>450人</td><td>54.0%</td><td>63.1%</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>53人</td><td>96人</td><td>104人</td><td>253人</td><td>446人</td><td>56.7%</td><td>67.5%</td></tr></table> <div>・1、2年生でGTEC全員受験。2年生で英語検定全員受験。 ・1年生全員を対象に、市内のALTを招きグローバルゼミを開催した。 ・1人1台iPadを活かしたAI型学習アプリ導入により英語基礎力向上を図ったほか、英語科教員による英検対策講座を実施した。</div>					1年	2年	3年	合計	全生徒数	全生徒取得率	3年取得率	令和3年度	41人	88人	83人	212人	493人	43.0%	43.9%	令和4年度	50人	104人	89人	243人	450人	54.0%	63.1%	令和5年度	53人	96人	104人	253人	446人	56.7%
	1年	2年	3年	合計	全生徒数	全生徒取得率	3年取得率																													
令和3年度	41人	88人	83人	212人	493人	43.0%	43.9%																													
令和4年度	50人	104人	89人	243人	450人	54.0%	63.1%																													
令和5年度	53人	96人	104人	253人	446人	56.7%	67.5%																													
C h e c k (評価)	点検・評価	○英語検定「準2級相当」以上の全体の取得率は令和4年度から大きく向上した。3年生においても取得率が伸びた。 ○グローバルゼミでは、楽しみながら英語に触れ、英語を身近に感じることができた。 ○米国スティーブン校生徒が小松市を訪れ、本校生徒と直接話すことができたほか、本校に在学する留学生と積極的に交流するなど、コミュニケーション能力の育成を図ったほか、異国の文化への関心を高める機会となった。 ○GTEC奨励賞 2年生 GTECのスコアを大きく伸ばした。（2023年度）			評価(達成度)																															
					A <table><tr><td>A</td><td>十分達成</td></tr><tr><td>B</td><td>おおむね達成</td></tr><tr><td>C</td><td>やや不十分</td></tr><tr><td>D</td><td>達成できず</td></tr></table>	A	十分達成	B	おおむね達成	C	やや不十分	D	達成できず																							
A	十分達成																																			
B	おおむね達成																																			
C	やや不十分																																			
D	達成できず																																			
A (改善)	課題	・4技能の力を総合的に伸ばす教科指導を実践していく。 ・引き続き英語検定対策講座を開催するなど、英語能力のスコアアップを図るとともに、今後も1、2年生からの意識付けを行っていく。																																		
用語説明	用語		説明																																	
	英語検定「準2級相当」以上※		大学入試改革に伴い、英検からGTECにシフト GTECスコア(4技能)680点以上が準2級相当以上																																	

点検評価票

アクションプラン区分	方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成
	3-③ 豊かな心の育成

P l a n (計画)	事業名	道徳教育推進事業	新規・継続	担当課
			継続	学校教育課
	目標・目的	道徳の時間の充実を図り、児童生徒の豊かな心の涵養を図る		
	アクションプラン指標	ふるさとに誇りを持ち、自己との関わりを見つめる道徳の授業の実施・検証・改善		
D o (実行)	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育推進校における道徳授業改善の充実及び他校への啓発 ・小松市ふるさと道徳教材「ゆたかな明日へのパスポート」の活用 		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育推進校（芦城中学校）における、定期的な授業研究及び年間複数回の公開研究授業を行った。著名講師による公開研修会を複数回開催し、授業力の向上を図った。 ・小松市ふるさと道徳教材「ゆたかな明日へのパスポート」を市内全校の道徳年間指導計画に位置づけ、実践した。 ・他教科との関連を図ることで、教育活動全体の中で児童生徒の道徳的な成長が見られた。 		
C h e c k (評価)	点検・評価	<p>○道徳教育推進校における公開研究授業を通して市内の教職員に発信したことで、よりよい道徳授業の啓発につながった。</p> <p>○「小松市ふるさと道徳教材」については、市内のほとんどの学校で活用された。</p>		評価(達成度)
				A
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
				D 達成できず
A (改善)	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育を中核に据えたカリキュラム・マネジメント、効果的で多様な指導方法（展開の工夫・発問・ICTの活用等）や評価の在り方についての研究を市内全体でより一層進めていくことが大切である。 		
用語説明		用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成
	3-③ 豊かな心の育成

P l a n (計画)	事業名	キャリア教育推進事業	新規・継続	担当課
			継続	学校教育課
	目標・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勤労観を身に付け、自分の将来を見つめながら、集団や社会の中で、主体的に自己を生かそうとする態度や能力を育む ・ 各学年段階におけるキャリア教育の実施、キャリアパスポートの活用 		
	アクションプラン指標	全中学校で実施・検証・改善		
D o (実行)	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連続3日間を原則とした、地域の様々な職場での体験活動 ・ 職業調べ、職業講話等の職業学習の実施 		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	各校、職場体験、職業人・企業等を招いて語る会や職業講話を実施することにより、働く意義や自分の将来について考える機会となった。		
C h e c k (評価)	点検・評価	<p>○各学校の実情に応じた職業学習の実施は、望ましい職業観・勤労観や自己実現を図ろうとする態度を育み、また自分の将来に向けて深く考えることのできるよい機会となった。</p> <p>○キャリア教育が各学校で定着しているが、見直しも必要である。</p>	評価(達成度)	
			B	
			A	十分達成
			B	おおむね達成
			C	やや不十分
			D	達成できず
A (改善)	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビヨンドコロナにおける職場体験活動の在り方 ・ より目的を明確にした職場体験学習の実施 ・ キャリアパスポートの更なる活用 		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成
	3-③ 豊かな心の育成

P l a n (計画)	事業名	いじめ・不登校対応事業	新規・継続	担当課
			継続	学校教育課
	目標・目的	いじめ・不登校・暴力行為など問題行動の解消を図る。		
	アクションプラン指標	<ul style="list-style-type: none"> ・全校でいじめを許さない取り組みを実施 R3→R6 5%減少 ・新規に不登校となる児童生徒を0にする 		
D o (実行)	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカー（SSW）の学校定期訪問および事案対応 ・小中学生サミットの推進 ・ステップルームの開設、運営 		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・SSWが定期的に各校への学校訪問を行い、学校の生徒指導の状況を把握し、その都度必要な助言を行った。 ・ステップルームを3校に開設し、相談室機能の充実を図った。 ・小中学生サミットにおいて、よりよい人間関係の構築をテーマに設定し、いじめの未然防止について生徒主体で話し合った。 		
C h e c k (評価)	点検・評価	<p>○SSWによるこれまでの豊富な経験を基にした先を見通した助言により、問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応等生徒指導力の向上が図られた。</p> <p>△ステップルーム事業により、不登校児童生徒の居場所拡大につながったが、市全体では不登校数が増加した。</p> <p>○小中学生サミットの取組により、児童生徒の主体性、自治活動能力の向上がみられた。</p>	評価(達成度)	
			B	
			A	十分達成
			B	おおむね達成
			C	やや不十分
			D	達成できず
A (改善)	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットいじめなど、複雑化するいじめ案件に対し、対策や意識の向上が必要である。 ・不登校児童生徒数が増加しており、さらなる対応策が必要である。 		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成
	3-③ 豊かな心の育成

P l a n (計画)	事業名	学校及び家庭との連携を目指した教育相談体制づくり	新規・継続 継続	担当課 教育研究センター
	目標・目的	支援が必要な児童生徒に対して、適切な見取り及び情報共有等により、児童生徒理解を深め、学校と家庭との連携を深められるようにする。		
	アクションプラン指標	児童生徒一人ひとりのニーズに応じたきめ細やかな支援の構築に向け、実施、検証、改善を行う。		
D o (実行)	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・相談者（児童生徒・保護者・学校）の不安や悩みに寄り添い、個に応じた支援をする。 ・学校と家庭の連携体制の支援をする。 		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談、ふれあい教室、訪問相談の3部門の職員が参加するリーダー会や合同ミーティングを定期的に行い、情報共有を行った。 ・支援が必要な児童生徒について、保護者の思いや悩みを聴き、児童生徒の困難さを適切に見取ったうえで、学校や家庭での支援体制について話し合った。 ・学校主催の教育事例検討会や土曜専門相談等において、小児科医や臨床心理士等の専門家や他機関とも連携しながら、校内の相談体制や児童生徒の支援について話し合った。 ・教育相談のべ回数（4,878件） 来所相談（1,725件） 電話相談（1,834件） 訪問相談（1,319件） 		
C h e c k (評価)	点検・評価	<p>○授業を参観したり、学校主催のケース会議に参加したりすることで学校との連携が進み、児童生徒への支援に繋がることができた。</p> <p>○ふれあい教室及び相談部等と学校で連携し、別室登校ができた。授業参加に繋がったりするケースもあった。</p> <p>○相談3部門の情報を共有することで、教育相談からふれあい教室通室へと繋がった。また、訪問相談から教育相談やふれあい教室へと繋がることもあった。</p> <p>○学校や他の専門機関と情報や見取りを共有し、福祉や医療分野から支援ができた。また、他機関同志の連携により、支援の輪が広がったケースもあった。</p>		評価(達成度)
				A
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
A c t i o n (改善)	課題	新規相談件数が、年々増加傾向にある。また、相談内容が多岐にわたり、複雑でより深刻なケースが増えている。今後も相談3部門で情報共有し、子供たちの社会的自立に向けて学校や家庭、外部機関と連携をとりながらそれぞれの状況に応じた支援を継続して行う。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成
	3-③ 豊かな心の育成

P l a n (計画)	事業名	令和6年小松市成人式～二十歳のつどい～	新規・継続	担当課						
			継続	生涯学習課						
	目標・目的	・対象者が二十歳としての自覚と責任を持つきっかけづくり ・ふるさとに対する誇りを持ち、絆を再認識する演出 ・周りの人やふるさとへの感謝の気持ちを醸成								
	アクションプラン指標	対象者が二十歳としての自覚と責任を持つきっかけとなるメモリアルな式典を目指す。								
D o (実行)	事業内容	対象者による成人式実行委員会を組織し、式典の企画運営にあたる。								
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・6月 成人式実行委員募集開始 ・10月5日 第1回実行委員会・実行委員任命式 ・10月31日 第2回実行委員会 ・12月22日 第3回実行委員会 ・令和6年小松市成人式～二十歳のつどい～開催 令和6年1月7日(日) 11:00 義経アリーナ(小松市末広体育館) 出席者 910人(対象者の78.6%) 恩師からのメッセージ動画 二十歳の誓い 能登半島地震を受け、会場内で義援金の呼びかけ								
C h e c k (評価)	点検・評価	○能登半島地震を受け、参加者の安全確保に向け、各種対策を急遽実施した。大きな混乱などもなく、スムーズに式典を執り行うことができた。 ・開場時間の繰り上げ(会場入口付近の混雑解消) ・式典時間の短縮 ・家族の入場人数を2人までとする協力依頼(万一の際の避難誘導を迅速・安全に行うため) ○「実行委員長の挨拶」や「二十歳の誓い」に地震直後の成人式の意義、今後の社会貢献に向けた思いなどが反映され、「二十歳としての自覚と責任を新たにする」という式典本来の意味が参加者にしっかりと共有された。		評価(達成度)						
				A <table><tr><td>A</td><td>十分達成</td></tr><tr><td>B</td><td>おおむね達成</td></tr><tr><td>C</td><td>やや不十分</td></tr><tr><td>D</td><td>達成できず</td></tr></table>	A	十分達成	B	おおむね達成	C	やや不十分
A	十分達成									
B	おおむね達成									
C	やや不十分									
D	達成できず									
A (改善)	課題	実行委員については、参加希望者の減少が著しく、その役割や位置づけを一度見直す時期に来ている。								
用語説明	用語		説明							

点検評価票

アクションプラン区分	方針4	生涯を通して自主的・共同的に学ぶ市民の活動を推進
	4-①	生涯学習の推進

P l a n (計画)	事業名	公民館活動推進事業		新規・継続	担当課																																																						
				継続	生涯学習課																																																						
D o (実行)	目標・目的	地域の連携と自治力を高め、地域に根ざした生涯学習活動の推進																																																									
	アクションプラン指標	・市立公民館生涯学習講座（講座数・延べ参加者数） R3：80講座7,000人 → R6：100講座11,500人																																																									
D o (実行)	事業内容	・生涯学習講座の開催 市立公民館9館で、健康や趣味などの講座を企画・開催する 市民は、住む地域に限らずどの公民館でも受講が可能 参加費は、1回につき大人200円、子供100円																																																									
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	計95講座を開催し、延べ10,766人が参加した。 <table><tr><td>公民館</td><td>実施講座数</td><td>講座</td><td>実施回数</td><td>延参加者数</td></tr><tr><td>稚松</td><td>8</td><td>小松原大学、フレイル予防、初めてのスマホ教室等</td><td>47</td><td>490</td></tr><tr><td>芦城</td><td>11</td><td>Jr百人一首教室、Jr絵画教室、パソコン教室等</td><td>155</td><td>2,301</td></tr><tr><td>国府</td><td>10</td><td>こども茶道教室、韓国語教室、太極拳教室、水引教室等</td><td>67</td><td>486</td></tr><tr><td>松東</td><td>7</td><td>健康体操教室、絵手紙教室、書道教室等</td><td>93</td><td>578</td></tr><tr><td>松陽</td><td>13</td><td>ピラティス教室、ガーデニング教室、ハンドメイド教室等</td><td>128</td><td>2,382</td></tr><tr><td>安宅</td><td>11</td><td>うたごえ教室、水彩画教室、星空ウォッチング等</td><td>117</td><td>1,000</td></tr><tr><td>南部</td><td>12</td><td>生花教室、プリザーブドフラワー教室、折り紙教室等</td><td>87</td><td>1,266</td></tr><tr><td>第一</td><td>10</td><td>こども将棋教室、家庭菜園講座、更年期セミナー等</td><td>83</td><td>971</td></tr><tr><td>板津</td><td>13</td><td>リフレッシュ体操教室、エアロビクス教室、笑いヨガ教室等</td><td>113</td><td>1,292</td></tr><tr><td>合計</td><td>95</td><td></td><td>890</td><td>10,766</td></tr></table>				公民館	実施講座数	講座	実施回数	延参加者数	稚松	8	小松原大学、フレイル予防、初めてのスマホ教室等	47	490	芦城	11	Jr百人一首教室、Jr絵画教室、パソコン教室等	155	2,301	国府	10	こども茶道教室、韓国語教室、太極拳教室、水引教室等	67	486	松東	7	健康体操教室、絵手紙教室、書道教室等	93	578	松陽	13	ピラティス教室、ガーデニング教室、ハンドメイド教室等	128	2,382	安宅	11	うたごえ教室、水彩画教室、星空ウォッチング等	117	1,000	南部	12	生花教室、プリザーブドフラワー教室、折り紙教室等	87	1,266	第一	10	こども将棋教室、家庭菜園講座、更年期セミナー等	83	971	板津	13	リフレッシュ体操教室、エアロビクス教室、笑いヨガ教室等	113	1,292	合計	95		890
公民館	実施講座数	講座	実施回数	延参加者数																																																							
稚松	8	小松原大学、フレイル予防、初めてのスマホ教室等	47	490																																																							
芦城	11	Jr百人一首教室、Jr絵画教室、パソコン教室等	155	2,301																																																							
国府	10	こども茶道教室、韓国語教室、太極拳教室、水引教室等	67	486																																																							
松東	7	健康体操教室、絵手紙教室、書道教室等	93	578																																																							
松陽	13	ピラティス教室、ガーデニング教室、ハンドメイド教室等	128	2,382																																																							
安宅	11	うたごえ教室、水彩画教室、星空ウォッチング等	117	1,000																																																							
南部	12	生花教室、プリザーブドフラワー教室、折り紙教室等	87	1,266																																																							
第一	10	こども将棋教室、家庭菜園講座、更年期セミナー等	83	971																																																							
板津	13	リフレッシュ体操教室、エアロビクス教室、笑いヨガ教室等	113	1,292																																																							
合計	95		890	10,766																																																							
C h e c k (評価)	点検・評価	○個人や民間から講座を募集する「みんなの公民館講座」を実施。ソフトバンク株式会社による「スマホ体験教室」を安宅公民館及び国府公民館で実施した（計参加者21人）。 ○更年期セミナー（小松市民病院）、避難所生活セミナー（日赤）、資産形成セミナー（北國銀行）等、新規講座の拡充を図った。 ○受講者数1,312人に対し新規受講者は743人（56.6%）、受講率（受講者数／定員）は、84.5%となった。			評価(達成度) B A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず																																																						
	A (改善)	課題	性別、年齢等に関わらず全ての住民の「学ぶ意欲」に応えていくため、各公民館のさらなるレベルアップが必要である。講座の企画力やPR力など、職員のスキルアップを図りたい。																																																								
用語説明	用語	説明																																																									

点検評価票

アクションプラン区分	方針4 生涯を通して自主的・共同的に学ぶ市民の活動を推進
	4-① 生涯学習の推進

P l a n (計画)	事業名	こまつ市民大学（第6期）	新規・継続	担当課
			継続	生涯学習課
	目標・目的	・地域社会で活躍する人材の育成 ・生涯を通じた学び直しとチャレンジの支援		
	アクションプラン 指標	・延べ受講者数 R3(第4期)：270人 → R6(第7期)：400人 レギュラーコース：70人増、ジュニアコース：60人増		
D o (実行)	事業内容	・講座の開講 開講期間：令和5年9月～令和6年8月 受講料等：登録料 1,000円 受講料 2,000円～8,000円		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	講座数：28講座（ジュニアコース3講座含む） 延べ受講者数：444人（ジュニアコース61人含む） ※令和6年6月30日時点		
C h e c k (評価)	点検・評価	○講座内容は、公立小松大学の教員らの専門性を活かしながら、「語学」や「国際理解」、「クラシック音楽」など、市民の興味関心の高いジャンルを設定するよう努めた。 ○第5期（令和4年9月～令和5年8月実施）終了の結果、6人に対してチャレンジャーの称号（10単位取得）を、4人に対してマイスターの称号（15単位取得）を授与した。 ○ジュニアコースでは、「北陸新幹線」や「気象」など、子どもたちに身近に興味を持ってもらえるテーマで開催した。	評価(達成度)	
			A	
			A 十分達成	
			B おおむね達成	
			C やや不十分	
A (改善)	課題	社会全体で「学び直し」の機運が高まる中、シニアだけでなく若い世代が参加しやすくなるようなPRが必要と捉えている。	D 達成できず	
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針4 生涯を通して自主的・共同的に学ぶ市民の活動を推進
	4-① 生涯学習の推進

P l a n (計画)	事業名	生涯学習施設の運営	新規・継続	担当課
			継続	生涯学習課
	目標・目的	市民の生涯学習の場としての生涯学習センターの活用		
D o (実行)	アクションプラン指標	稼働率の向上、利用者数の拡大		
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 施設の管理運営、施設の修繕・改修など 指定管理者制度の導入 芦城センター 第一地区コミュニティセンター 		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	利用者数 [芦城センター] R3年度 42,621人 R4年度 50,337人 R5年度 52,743人 [第一地区コミュニティセンター] R3年度 45,001人 R4年度 43,822人 R5年度 56,587人		
C h e c k (評価)	点検・評価	○芦城センターの利用人数は、毎年順調に増加している。 ○第一地区コミュニティセンターは、令和4年度、大雨災害に伴うボランティアセンター開設で施設貸し出しができなくなった影響で利用人数が大幅に減少したが、それ以前を上回る利用者数の回復となった。		評価(達成度)
				A
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
A c t i o n (改善)	課題	特に第一コミセンは、平成14年の建築から20年が過ぎ、毎年細かな修繕が多々必要になってきている。施設修繕を適切に行い、利用者にとって安心・安全な施設となるよう目指す。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針4 生涯を通して自主的・共同的に学ぶ市民の活動を推進
	4-① 生涯学習の推進

P l a n (計画)	事業名	青少年育成団体活動への支援事業	新規・継続	担当課
			継続	生涯学習課
	目標・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・オールこまつによる青少年の健全育成 ・青少年健全育成推進団体の連携強化 ・家庭と地域の教育力の向上 		
	アクションプラン指標	各団体の活動の活性化を目指す		
D o (実行)	事業内容	組織的に青少年に対する教育活動を行う団体に対して運営助成を行うことにより、地域の青少年健全育成活動の活性化を図る。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	青少年健全育成団体への運営補助金を交付 <ul style="list-style-type: none"> ・小松市子ども会連合会 ・小松市立学校PTA連合会 ・日本ボーイスカウト小松協議会 ・小松市公民館連合会 		
C h e c k (評価)	点検・評価	○各団体に対して運営助成を行うことにより、地域の青少年健全育成活動が幅広く実施された。	評価(達成度)	
			A	
			A	十分達成
			B	おおむね達成
			C	やや不十分
			D	達成できず
A (改善)	課題	各団体が社会教育委員と連携し、より効果的な青少年健全育成活動が実施できるような仕組みづくりをしていく必要がある。		
用語説明	用語		説明	


点検評価票

アクションプラン区分	方針4 生涯を通して自主的・共同的に学ぶ市民の活動を推進
	4-② 生涯読書の推進

P l a n (計画)	事業名	読書活動の推進	新規・継続	担当課																														
			継続	図書館																														
	目標・目的	生涯にわたり読書に親しめる環境の整備、市民の読書活動を推進する。																																
D o (実行)	アクションプラン指標	貸出人数・貸出冊数の増加 貸出人数 (R3→R6比/本館5.6万人→5.9万人、南部1.9万人→2.2万人) 貸出冊数 (R3→R6比/本館22.9万冊→24万冊、南部8万冊→9万冊) 利用者の施設・サービス等の満足度の向上 (R3→R6比/10%向上)																																
	事業内容	読書活動の推進、図書館利用サービスの充実、図書館の安心・安全な環境づくり、学校・他施設との連携等を運営方針として、図書の貸出・購入、移動図書館車の活用、図書館事業（ビブリオバトル・読み聞かせ・テーマ展示等）を行う。																																
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th></th><th>R5年度</th><th>R4年度</th><th>対前年度比</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">市立図書館</td><td>貸出者数(人)</td><td>54,703</td><td>55,984</td><td>-1,281</td></tr> <tr> <td>貸出冊数(冊)</td><td>211,552</td><td>224,470</td><td>-12,918</td></tr> <tr> <td>利用者満足度(%)</td><td>73.6</td><td>64.8</td><td>8.8</td></tr> <tr> <td rowspan="3">南部図書館</td><td>貸出者数(人)</td><td>20,610</td><td>20,942</td><td>-332</td></tr> <tr> <td>貸出冊数(冊)</td><td>83,758</td><td>85,517</td><td>-1,759</td></tr> <tr> <td>利用者満足度(%)</td><td>92.7</td><td>81.4</td><td>11.3</td></tr> </tbody> </table>					R5年度	R4年度	対前年度比	市立図書館	貸出者数(人)	54,703	55,984	-1,281	貸出冊数(冊)	211,552	224,470	-12,918	利用者満足度(%)	73.6	64.8	8.8	南部図書館	貸出者数(人)	20,610	20,942	-332	貸出冊数(冊)	83,758	85,517	-1,759	利用者満足度(%)	92.7	81.4
		R5年度	R4年度	対前年度比																														
市立図書館	貸出者数(人)	54,703	55,984	-1,281																														
	貸出冊数(冊)	211,552	224,470	-12,918																														
	利用者満足度(%)	73.6	64.8	8.8																														
南部図書館	貸出者数(人)	20,610	20,942	-332																														
	貸出冊数(冊)	83,758	85,517	-1,759																														
	利用者満足度(%)	92.7	81.4	11.3																														
C h e c k (評価)	点検・評価	<p>○新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、3年見合わせていた夏季開館時間の延長を行い、市民の安心・安全を確保しつつ読書サービスの提供・充実に努めた。</p> <p>○ビブリオバトルは、高校生大会、中学生大会に加え、新たに小学生大会を実施した。(中学生大会は県大会として実施し、優勝者は全国大会に出場)</p> <p>○絵本作家の講演会、芦城公園周辺施設と連携した音さんぽ、昨年度からの取り組みである図書館カフェを実施した。移動図書館車事業も計画どおり実施した。</p> <p>○新たに、電子雑誌館内閲覧サービス、デジタル利用者カードシステムを導入し、サービスの向上に努めた。</p> <p>△貸出冊数、貸出者数共に減少となった。</p> <p>○利用者満足度は大きく上昇した。</p>																																
A (改善)	課題	<p>・テーマ展示や読書イベント等、市民ニーズを捉えながら関係機関とも連携し、読書活動推進、図書館事業の充実、サービス向上を図っていききたい。</p> <p>・利用手続きに電子申請サービスを取り入れるなど、図書館の利用者満足度向上につながる取り組みを検討し進めていきたい。</p>																																
用語説明	用語		説明																															


点検評価票

アクションプラン区分	方針4 生涯を通して自主的・共同的に学ぶ市民の活動を推進
	4-② 生涯読書の推進

P l a n (計画)	事業名	読書活動の推進（おはなし会）	新規・継続	担当課
			継続	空とこども絵本館
D o (実行)	目標・目的	・絵本の楽しさを伝える。絵本の世界を楽しむ。		
	アクションプラン指標	貸出人数・貸出冊数の増加 貸出人数（R3→R6比／7.7千人→9千人） 貸出冊数（R3→R6比／4.5万冊→5.5万冊） 利用者の施設・サービス等の満足度の向上（R3→R6比／10%向上）		
	事業内容	・【定例おはなし会】毎月23日（もしくは22日）こまつ市民読書の日にテーマに沿って10：30から開催。 ・【日曜あさのおはなし会】毎月第1日曜日の10：30から開催。 ・【クリスマスおはなし会】12月に開催。 ・【びよびよおはなし会】毎月第3金曜日の10：30から開催（R4から新設）		
C h e c k (評価)	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・令和3年度参加者 291人 ・令和4年度参加者 733人 ・令和5年度参加者 786人		評価(達成度) A A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず
	点検・評価	○令和4年度から開始したびよびよおはなし会は、参加対象を限定（0～2歳児とその保護者）し、明確にしたことにより、月年齢に合わせた内容で実施することができた。そのため、実施時間にあわせて来館する親子が増え、定着した。 ○おはなし会で使用した絵本を、終了後に展示し貸出できるようにした。  びよびよおはなし会の様子		
A (改善)	課題	おはなし会参加者の低年齢化、参加人数の伸び悩みなどの原因を再検討する必要がある。また、おはなし会の開催がイベントとして終わるのではなく、子どもと本を結ぶことにつながることを再認識して実施していく。		
用語説明	用語	説明		

点検評価票

アクションプラン区分	方針4 生涯を通して自主的・共同的に学ぶ市民の活動を推進
	4-② 生涯読書の推進

P l a n (計画)	事業名	読書活動の推進（出張絵本館）	新規・継続	担当課
			継続	空とこども絵本館
D o (実行)	目標・目的	高齢者や学童など、絵本館に足を運ぶことが難しいと思われる人たちに絵本の魅力を伝える。絵本を楽しんでもらう。		
	アクションプラン指標	貸出人数・貸出冊数の増加 貸出人数（R3→R6比／7.7千人→9千人） 貸出冊数（R3→R6比／4.5万冊→5.5万冊） 利用者の施設・サービス等の満足度の向上（R3→R6比／10%向上）		
	事業内容	毎月第2、第4木曜日の整理休館日の午後を利用して、施設等を出向き絵本の読み聞かせや紙芝居の紹介を行う。		
C h e c k (評価)	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・令和3年度参加者 166人 ・令和4年度参加者 311人 ・令和5年度参加者 870人		評価(達成度) A A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず
	点検・評価	○新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行により、それまで受入れを見送っていた施設で再開できるようになり、利用者数は大幅に増加した。 ○新たな施設へ訪問することができた。「楽しかった」「また来てほしい」という感想をいただき、大人の方へも絵本の楽しさを伝えることができた。  出張絵本館(高齢者施設)の様子		
A (改善)	課題	実施の方法や訪問先などを検討、他施設との連携を増やし、積極的に絵本を提供する機会を広げたい。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針4 生涯を通して自主的・共同的に学ぶ市民の活動を推進
	4-② 生涯読書の推進

P l a n (計画)	事業名	読書活動の推進（よんでよんで）	新規・継続	担当課
			継続	空とこども絵本館
	目標・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・声に出して読んでもらいながら絵を眺めるという、絵本本来の楽しさを伝える。 ・1冊の絵本を共に読むことで大人と子どものつながりを深める機会とする。 		
	アクションプラン指標	貸出人数・貸出冊数の増加 貸出人数（R3→R6比／7.7千人→9千人） 貸出冊数（R3→R6比／4.5万冊→5.5万冊） 利用者の施設・サービス等の満足度の向上（R3→R6比／10%向上）		
D o (実行)	事業内容	毎月23日（もしくは22日）のこまつ市民読書の日に、絵本館スタッフが1対1で希望者のために読み聞かせをする。1人につき2冊まで。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度参加者 190人 ・令和4年度参加者 358人 ・令和5年度参加者 440人 		
C h e c k (評価)	点検・評価	○コロナ禍では冊数制限を設けていたが、5類感染症に移行後は、読む冊数も2冊に戻し実施した。 ○絵本を読んでもらう楽しさを十分に体験してもらうことができた。		評価(達成度)
				A
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
				D 達成できず
A (改善)	課題	子どもと共に絵本を読むことの楽しさや安らぎを多くの人が実感できるよう、今後も積極的に参加を促す。また、未参加の方に向けてSNS等を活用して発信していく。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針5 学校教育、社会教育等を目的とした公共施設を整備
	5-① 新しい教育や社会の変化に対応した施設整備

P l a n (計画)	事業名	学校施設のリニューアル (小中学校校舎等改修費)	新規・継続	担当課
			継続	教育庶務課
	目標・目的	老朽化した学校施設の改修や空調復旧工事等を実施することで、教育環境の機能向上を図る。		
	アクションプラン指標	新しい教育内容や社会のニーズに沿った施設改修		
D o (実行)	事業内容	学校施設の空調復旧工事、体育館改修工事、設備更新の実施 等 【主な内容】 ・空調復旧工事：空調設備の更新、個別空調化 ・体育館改修工事：照明LED化、外壁改修 ・設備更新：受水槽取替、高圧機器更新 等		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<小学校> ・空調復旧工事（2ヵ年工事の2年目）（今江小） ・空調復旧工事实施設計（能美小） ・体育館照明LED化（符津小） ・グラウンド法面工事（蓮代寺小）、駐車場拡張工事（向本折小） ・受水槽取替工事（能美小）、変圧器更新工事（稚松小、串小、栗津小） <中学校> ・空調復旧工事（2ヵ年工事の2年目）（板津中） ・講堂外壁改修工事实施設計（板津中） ・プール循環ろ過装置修繕工事（丸内中） ・体育館照明LED化（国府中、中海中）、高圧機器更新工事（松陽中）		
C h e c k (評価)	点検・評価	○空調復旧工事では空調機器の更新に合わせて個別空調方式となり、環境にも配慮した改修ができた。 ○体育館照明のLED化やグラウンド法面工事など、安全な教育環境を整備することができた。 ○受水槽や加圧給水ポンプ、変圧機器など、老朽化した設備の更新ができた。		評価(達成度)
				A
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
				D 達成できず
A (改善)	課題	・空調復旧工事は前回工事から年数が経過し、老朽化が進んできている。今後も計画的に工事を実施していく必要がある。 ・概ね計画どおりの工程管理ができた。 工事現場における4週8休の実施が求められるようになり、夏休みの集中工事が難しくなっている。今後はより一層工程管理をしていく必要がある。		
用語説明		用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針5 学校教育、社会教育等を目的とした公共施設を整備
	5-① 新しい教育や社会の変化に対応した施設整備

P l a n (計画)	事業名	松陽中学校整備費	新規・継続	担当課
			新規	教育庶務課
	目標・目的	子どもたちの学ぶ意欲を支え、豊かな心と夢を育む学校づくりへ向け、松陽中学校の整備を行う		
	アクションプラン指標	新しい教育内容や社会のニーズに沿った施設改修		
D o (実行)	事業内容	松陽中学校の教室棟新築工事及び既存校舎改修工事 令和5年度 校舎整備検討懇話会、公募型プロポーザル競技実施 令和6年度 プロポーザル競技に基づく基本設計・実施設計 市道付替工事・上下水道移設工事の実施設計、地質調査 令和7年度 市道付替工事（予定） 令和8年度～ 建設工事着手（予定）		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	【令和5年度の実績】 校舎整備検討懇話会の開催 4回 生徒へのアンケート実施 校舎整備事業設計業務公募型プロポーザル協議審査会 既存校舎構造体事前調査 鉄筋かぶり厚さ調査 電波障害事前調査 校舎整備に伴う下水道公共樹先行工事 等		
C h e c k (評価)	点検・評価	○校舎整備に向け、保護者や地域を交えての検討懇話会を開催することにより、整備についての共通認識を持つことができた。 ○公募型プロポーザル競技の実施により、複数提案の中から最優秀提案者(受託候補者)を選定することができた。		評価(達成度)
				A
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
				D 達成できず
A (改善)	課題	令和8年度以降の工事着手に向け、懸案事項の確認や工程管理、予算確保が課題。 工事着手後も生徒の安全確保の徹底、計画どおりの工程管理が必要。		
用語説明		用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針5 学校教育、社会教育等を目的とした公共施設を整備
	5-② 安全で安心な教育環境の推進

P l a n (計画)	事業名	教育環境の改善及び充実 (小中学校校舎等営繕費)	新規・継続	担当課
			継続	教育庶務課
	目標・目的	老朽化した学校施設の小規模修繕及び改修を実施することで、教育環境の維持並びに機能向上を図る。		
	アクションプラン指標	学校要望を踏まえた環境改善を毎年全校で実施。環境改善校100%		
D o (実行)	事業内容	学校施設の小規模修繕及び改修の実施、法定点検指導に基づく修繕、改修工事 【主な修繕、改修内容】 ・消防設備（自動火災報知器、消火栓ホース等）修繕 ・エレベータ修繕 ・雨漏り箇所修繕 ・空調修繕 等		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<小学校>小修繕 121件、工事32件、備品ほか17件（執行率99.43%） ・トイレ照明LED化工事（第一）、屋上防水修繕工事（月津） ・しろやま公園擁壁補修工事（今江）、放送設備更新工事（荒屋） ・自動火災報知設備更新工事（向本折）、エレベータ修繕、空調修繕 ・特別支援学級対応修繕 等 <中学校>小修繕 61件、工事11件（執行率97.40%） ・吹抜け天井照明LED化工事（南部）、ガス給湯器取替（安宅） ・法面補修工事（中海）、受水槽加圧ユニットポンプ取替工事（南部） ・放送設備更新工事（安宅）、エレベータ修繕 ・特別支援学級対応修繕 等		
C h e c k (評価)	点検・評価	○「安全・安心な学校づくり費」とのすみ分けにより、消防設備や自家用電気工作物、エレベータなど、児童生徒の安全面に関する修繕について、優先順位をつけ必要な修繕を計画的に実施することができた。 ○放送設備など、老朽化した設備の更新を実施した。 ○翌年度の特別支援学級増設等に対応するため、必要な修繕等を行い、きめ細やかに対応できた。		評価(達成度)
				A
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
				D 達成できず
A (改善)	課題	学校生活を送るうえで機能の維持や児童生徒の安全対策として必要な修繕・改修を計画的に実施していくことが必要である。		
用語説明		用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針5 学校教育、社会教育等を目的とした公共施設を整備
	5-② 安全で安心な教育環境の推進

P l a n (計画)	事業名	教育環境の改善及び充実 (安全・安心な学校づくり費)	新規・継続	担当課
			継続	教育庶務課
	目標・目的	学校施設における遊具や体育設備の更新、安全対策の充実を図り、より良い教育活動の実現を目指す。		
	アクションプラン指標	学校要望を踏まえた環境改善を毎年全校で実施。環境改善校100%		
D o (実行)	事業内容	学校要望を踏まえた上で、児童・生徒が日々使用する施設や設備を修繕・新設 【主な内容】 ・教育活動の充実 ・学校施設の安全対策 ・遊具の更新、体育設備の更新 ・危険樹木の伐採 等		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<小学校>修繕34件、工事14件、業務ほか7件(執行率98.42%) ・遊具更新(芦城、蓮代寺、向本折、符津、栗津) ・プールフェンス取替工事(犬丸、国府、中海) ・黒板取替工事(今江)、インターホン増設、防球ネット修繕 等 <中学校>修繕7件、工事11件、業務ほか3件(執行率95.56%) ・プール更衣室改修工事(国府)通学路階段改修工事(中海) ・日よけロールスクリーン取付(丸内)、体育館床修理(松陽) ・プールコースライン改修(御幸)、フェンス設置(芦城) ・グラウンド補修工事、防球ネット修繕 等		
C h e c k (評価)	点検・評価	○学校の要望に沿いながら実施することができ、満足度が向上した。 ○黒板取替や遊具更新、防球ネット取替、フェンス設置工事など、教育環境の充実を図ることができた。 ○危険木や枯木の伐採を行い、安全な教育環境を整備することができた。	評価(達成度)	
			A	
			A	十分達成
			B	おおむね達成
			C	やや不十分
			D	達成できず
A (改善)	課題	全校からの要望に沿い、概ね計画どおりに実施できた。 今後も学校の要望事項に沿いながら、計画的に実施していきたい。		
用語説明		用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針5 学校教育、社会教育等を目的とした公共施設を整備
	5-③ 効果的な学習のための環境整備

P l a n (計画)	事業名	ICT教育環境推進	新規・継続	担当課
			継続	教育研究センター
	目標・目的	ICTを活用した授業及び活動を推進するため、ICT環境を整備する。		
	アクションプラン指標	ICT環境の整備計画の検証、改善を行い、充実を図る。		
D o (実行)	事業内容	ICT教育環境の整備		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<ul style="list-style-type: none">・65インチ大型モニターを市内28校に配備した。・小学4年～中学3年に対し、A I 型学習ドリルを授業や家庭学習で活用した。・GIGAスクール運営支援センター整備事業として、教育情報セキュリティポリシー策定、夏季休業中ヘルプデスク開設、教職員等を対象としたICT研修、学習用端末メンテナンス業務を実施した。・校務用パソコンを市内32校に更新整備した。		
C h e c k (評価)	点検・評価	<p>○各校でのICT環境整備を計画に従って進めることができた。</p> <p>○A I 型学習ドリルを利用することで、児童生徒の8割以上から、学んだことが身につくと感じるとの回答を得られた。</p> <p>○ICTインストラクターを各校へ派遣し、教員の機器操作に対するアドバイスや校内研修、授業での支援を実施できた。</p>		評価(達成度)
				A
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
			D 達成できず	
A (改善)	課題	<ul style="list-style-type: none">・さらなるICTの効果的な活用を探り、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を実現する。・市内全小・中・義務教育学校に、65インチ大型モニターを計画的に配備する。・市内学校の教育ネットワークの通信状況の点検及び改善を行う。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針5 学校教育、社会教育等を目的とした公共施設を整備
	5ー③ 効果的な学習のための環境整備

P l a n (計画)	事業名	外国人児童生徒日本語初期指導 (日本語指導、キャリア教育)	新規・継続	担当課
	目標・目的	外国人児童生徒への適切な支援を行う。		
	アクションプラン 指標	日本語指導が必要な児童生徒への学習支援の充実・検証・改善		
D o (実行)	事業内容	外国人児童生徒教育支援事業		
	実績・成果 (アクションプラン の進捗含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語通級指導教室（芦城小学校…児童16人 教員1人・第一小学校…児童21人 教員1人）にて、日本語指導が必要な児童に対して個別の支援を行った。 ・日本語初期指導教室（向本折小学校内…児童12人 教員1人、母語指導者1人 室長1人）にて、初来日で日本語が理解できない児童に対して日本語初期指導や日本の学校への適応指導を行った。 ・日本語通級教室設置校以外に在籍している日本語指導が必要な児童生徒に対しては、日本語支援員を派遣して支援を行った。 ・保護者に対する通訳・翻訳支援を行った。 		
C h e c k (評価)	点検・評価	<p>○通級指導におけるきめ細かな指導により、児童生徒の日本語力の向上や教科の学習内容の理解につながった。</p> <p>○日本語初期指導では、日本の学校生活や初期の日本語を早期に身につけることができ、在籍校で過ごす不安の解消につながった。</p> <p>○日本語支援員を定期的に派遣することで、日本語指導が必要な児童生徒に対して個別の日本語指導を行うことができた。</p>		評価(達成度)
				A
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
A c t i o n (改善)	課題	日本語指導が必要な児童生徒が増加している一方で、日本語支援員や通訳講師が不足していることが課題である。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針6 ライフステージに応じた健康的な生活習慣と病気に負けない身体づくりを推奨
	6-① 食育の推進

P l a n (計画)	事業名	家庭、地域と連携した食育の推進	新規・継続	担当課
			継続	学校教育課
	目標・目的	地産地消や地域の食文化を学ぶことにより食に対する興味関心を高める		
	アクションプラン 指標	児童生徒に実施したアンケートで「給食がおいしい」と答える割合 R3：85%→R6：95%		
D o (実行)	事業内容	<ul style="list-style-type: none">・地場産物や旬のおいしい食材の給食メニューへの導入推進（地元産の蛸米やえちやけな、小松とまと、日向源助大根など）・学校ごとの地域性を活かした食育活動（生産現場の見学等）・「中学生学校給食献立コンクール受賞献立」の実施・栄養教諭（栄養士）による食育の授業（支援）の実施		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<ul style="list-style-type: none">・時季に合わせた旬のおいしい食材を使用した給食の提供を行った。・毎年県主催で行われる中学生学校給食献立コンクールにて賞を受賞した献立を給食メニューに取り入れ、生徒が考えた地場産物を取り入れた献立の紹介をし、地元食材についての理解を深めた。・学年の実態に応じた食育の授業を実施できた。		
C h e c k (評価)	点検・評価	<p>○「給食はおいしいですか」というアンケートに対して「おいしい」「どちらかといえばおいしい」と肯定的に回答した児童生徒の割合</p> <p>令和4年度（全校を対象にアンケート） 小学校 95% 中学校 89%</p> <p>令和5年度（全校を対象にアンケート） 小学校 95% 中学校 94%</p>	評価(達成度)	
			A	
			A	十分達成
			B	おおむね達成
			C	やや不十分
A (改善)	課題	<ul style="list-style-type: none">・食育の観点からのアンケートを実施し、さらなる質の向上のための視点を獲得することが必要。・物価高騰の折、安心安全な食材の安定的な確保・給食だよりや各学校のホームページ等で旬のおいしい食材についても紹介することでより地場産物について理解を深めていく。	D	達成できず
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針6 ライフステージに応じた健康的な生活習慣と病気に負けない身体づくりを推奨
	6-① 食育の推進

P l a n (計画)	事業名	おいしい学校給食の提供	新規・継続	担当課
			継続	学校教育課
	目標・目的	おいしい学校給食の提供することで食に対する興味関心を高める		
	アクションプラン指標	児童生徒に実施したアンケートで「給食がおいしい」と答える割合 R3：85%→R6：95%		
D o (実行)	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスを考え、学校関係者及び保護者、業者等による給食献立の作成（献立調整委員会の開催） ・栄養士、調理員及び学校、保護者代表による物資の選定 		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・各校から提出される献立反省表や残食量のデータをもとにした献立作成。 ・市内の学校栄養士が集まり、学期ごとに献立の確認を行い、安心安全でおいしい給食の提供を実施。 		
C h e c k (評価)	点検・評価	<p>○「給食はおいしいですか」というアンケートに対して「おいしい」「どちらかといえばおいしい」と肯定的に回答した児童生徒の割合</p> <p>令和4年度（全校を対象にアンケート） 小学校 95% 中学校 89%</p> <p>令和5年度（全校を対象にアンケート） 小学校 95% 中学校 94%</p>		評価(達成度)
				A
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
				D 達成できず
A (改善)	課題	アンケート結果は向上しており、目標値達成に向けて、学校現場の声を生かし、より良い給食を提供できるように取り組みを継続していきたい。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針7 学校体育、生涯スポーツを推進、奨励
	7-① 体力・体づくりの推進

P l a n (計画)	事業名	体育教育推進事業	新規・継続	担当課
			継続	学校教育課
	目標・目的	児童生徒が運動に親しむ資質・能力の育成を図る。		
D o (実行)	アクションプラン指標	全小中学校において各学校の課題に応じた体力向上プランの実施		
	事業内容	<ul style="list-style-type: none">・「体力向上1校1プラン」の充実・「スポチャレいしかわ」の取組推進		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<ul style="list-style-type: none">・各校が体力アップのプランを作成し、体力向上に向けての取組を実施した。・「スポチャレいしかわ」に全小中学校が取り組んだ。		
C h e c k (評価)	点検・評価	<p>○「体力向上1校1プラン」では、自校が立てた目標を達成するため、各学校に応じた取組を行い、2学期、3学期に再度測定を行い評価していた。</p> <p>○「スポチャレいしかわ」に計画的に取り組んでいる。取組学級数は、R2の79%からR3は95%と大きく増加し、R4は100%となったが、R5は96%だった。ただし、種目の中で、特に8の字と長なわに多くの学校が取り組み、ベスト部門やチャレンジ部門で、どの学年でも上位入賞した学級があった。</p>	評価(達成度)	
			A	
A c t i o n (改善)	課題	<ul style="list-style-type: none">・「体育が楽しいか」と肯定的な回答をする割合を高めるために、教材研究はもとより、様々な教育活動の中で、運動に親しむ機会を確保していく必要がある。・体力・運動能力調査の結果を踏まえた取組を、年間を通じて継続的に取り組めるような手立てが必要である。	A 十分達成	
			B おおむね達成	
	用語説明		C やや不十分	
			D 達成できず	
		用語	説明	

点検評価票


アクションプラン区分	方針7 学校体育、生涯スポーツを推進、奨励
	7-② 生涯スポーツの推進


P l a n (計画)	事業名	学校体育・健康教育推進事業	新規・継続	担当課
			継続	学校教育課
	目標・目的	部活動において、真摯に取り組んできたことで、将来にわたりスポーツに親しみ、社会に欠かすことのできない人材と成長することを願う。		
	アクションプラン指標	当該年度卒業予定の生徒で、「表彰審査基準」を満たした者を学校長が推薦し、小松市教育委員会の審査を経て表彰する。		
D o (実行)	事業内容	中学校部活動表彰【Big growth award】の実施 部活動において、真摯な態度でチームを支えたり、個人的に努力を続けたりして、3年間、ひたむきに努力を続けた生徒や、進んで仲間を支えた生徒等を表彰する。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	市内10校より17人の推薦があり、すべて表彰規定を満たしていたので、表彰を行った。		
C h e c k (評価)	点検・評価	○今年度は、バスケットボール、バレーボール、ハンドボール、サッカー、軟式野球、陸上競技、水泳競技、卓球、剣道と9競技から、また、文化部からは吹奏楽部と美術部と、幅広い中から、活躍する生徒を表彰することができた。	評価(達成度)	
			A	
			A	十分達成
			B	おおむね達成
			C	やや不十分
			D	達成できず
A (改善)	課題	新型コロナウイルス感染症が5類に変更になり、部活動も通常の活動ができるようになってきたが、一方では、部活動の地域移行に伴い、様々な課題が上がってきている。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分		方針8 夢や創造性をもって新たな「知」を創出する科学教育を推進
		8-① 質の高い科学教育の推進

P l a n (計画)	事業名	「楽しむ、学ぶ、挑む」サイエンスの推進	新規・継続	担当課
			継続	ひととのづくり科学館
	目標・目的	「楽しむ、学ぶ、挑む」サイエンスを推進することで、幅広い年代が多様な科学にふれる科学館を目指す		
D o (実行)	アクションプラン指標	幼児とシルバー世代の来館者数 R3→R6 20%増		
	事業内容	【R5よりワンダーランド無料化】 ・楽しむサイエンス ・LEGO体験教室、防災ヒーロー入団試験、プロジェクトマッピング、面白サイエンスショー等 ・学ぶサイエンス ・南極・昭和基地ツアー、フュージョンエネルギー講演会、オーロラ研究最前線等 ・挑むサイエンス ・天文学検定、全国カプラ大会、宇宙エレベーターロボット競技大会、ポスターセッション等		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・様々な分野の科学、多様な市民の利用で来館者数がR4年度を超えた。 ・R4➡107,845人 R5➡108,598人 (R5 無料来館者を含めず、含めると約7,000人増) ・ワンダーランド無料化にあわせ市内幼保園、市内学校団体3Dスタジオの無料化を実施した。		



C h e c k (評価)	点検・評価	○楽しむサイエンス ・幅広い年代が楽しめる企画4本増(10周年事業活用) ○学ぶサイエンス ・自然、エネルギー関係新講座3本実施 ○挑むサイエンス ・自らの学びを発表するポスターセッションの場開催 【様々な分野の科学、施設の多様な活用で幅広い年代の生涯学習の場、学びの場としての利用が推進された。】		評価(達成度)
				A
				A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず

A c t i o n (改善)	課題	・ワンダーランドの無料化、団体等の特典がまだまだ周知されていない。SNSや様々な広報活動を通し、一層の周知を図っていく。 ・幅広い年代の来館者がいつ来ても、何度来ても楽しめるような企画を考えていく。	

用語説明	用語	説明

点検評価票

アクションプラン区分		方針8 夢や創造性をもって新たな「知」を創出する科学教育を推進
		8-① 質の高い科学教育の推進

P l a n (計画)	事業名	学校とひとものづくり科学館、教育研究センターの連携（教育施設としての活用）	新規・継続	担当課					
	目標・目的	幼児、児童、生徒の理科への興味関心を高め、学校における科学的学習環境の充実を図る	継続	ひとものづくり科学館					
	アクションプラン指標	教育研究センターとの連携を通し、学校における科学的学習環境の充実に向け、R6年度までに企画、実施、検証、改善を行う。							
D o (実行)	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児から児童、生徒までの科学、ものづくり体験学習 ・市内小学校4年生レゴプログラミング体験教室 ・ステップルーム生徒（不登校傾向）の積極的受け入れ ・SSH※との連携 ・小中学校の理科教員支援 							
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・科学、ものづくり体験学習を実施する幼保園が増えてきた。 ・市内小学校4年生プログラミング体験学習の際にはスタジオでの天体学習もセットし、学びの充実を図った。 ・ステップルームの参加生徒数は市内のべ22人、他市10人であった。 ・SSH※連携の究める課題研究発表会では約250人が一同に会し、ポスターセッションや科学イベントを実施した。 ・地域の科学環境、振興の充実につながった。 (県内外8高校、1中学、ヒルズ関係2団体が参加) ・小・中学校理科教員を対象に教材開発、実験器具製作実習を行った。 							
C h e c k (評価)	点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> ○スタジオ無料化で体験学習実施の市内幼保園が増えた。 ○学習時間の効率的活用、段階的指導の必要性を鑑み、プログラミングと天体学習をセットとして利用する小学校が増えた。 ○SSH※との連携は校種接続、地域科学教育の広がり、振興、充実の上で有効な取組であった。今後、市内小中学校の参加を促す。 ○小・中学校理科教員については教育研究センターと連携しヒルズでの講演会や科学イベントにおいても効果的に活用できる体制を整えた。 	評価(達成度)						
			<div style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">A</div> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>A</td><td>十分達成</td></tr> <tr><td>B</td><td>おおむね達成</td></tr> <tr><td>C</td><td>やや不十分</td></tr> <tr><td>D</td><td>達成できず</td></tr> </table>		A	十分達成	B	おおむね達成	C
A	十分達成								
B	おおむね達成								
C	やや不十分								
D	達成できず								
A (改善)	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒルズを利用することで幼児、児童、生徒にとって体験したことのない学び、正答のない問題に粘り強く取り組み解決していく探究力育成につながる学びの手立てを考える。 							
用語説明		用語	説明						
		SSH	スーパーサイエンスハイスクールの略 高校において先進的理科教育、大学との共同研究、国際性を育む取組を推進。県内では3高校（小松、泉丘、七尾）が指定。						

点検評価票

アクションプラン区分	方針8 夢や創造性をもって新たな「知」を創出する科学教育を推進
	8-① 質の高い科学教育の推進

P l a n (計画)	事業名	学校とひととのづくり科学館と教育研究センターの連携	新規・継続	担当課
			継続	教育研究センター
	目標・目的	科学教育の推進		
D o (実行)	アクションプラン指標	「理科の勉強が好き」と回答する児童生徒の割合が80%以上		
	事業内容	「サイエンスアクションプラン」をもとにした科学教育の推進		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・R5全国学力・学習状況調査 質問紙調査より「理科の勉強が好き」と回答する児童生徒の割合は、小学校80.3% 中学校69.1% ・石川県中学生サイエンスチャレンジに向けた学習会を開催し、市内全中・義務教育学校の生徒が参加した。 ・小松市児童生徒科学作品展において、市内小中学校の科学作品の展示を行った。 ・市内小学生を対象に、サイエンスアドベンチャーを開催した。 ・サイエンスヒルズこまつにて、小学校4年生児童がプログラミング体験を行った。 ・市内小学校に理科支援員を配置し、理科の授業の充実を図った。 		
C h e c k (評価)	点検・評価	<p>△「理科の勉強が好き」と回答する児童生徒の割合は、小学校は目標指標を上回ったが、中学校は下回っている。</p> <p>○市内小中学校児童生徒の科学作品の展示を行い、科学に対する興味や関心、探究心を高めることができた。</p> <p>○板津中学校が石川県代表として科学の甲子園ジュニア全国大会に出場した。</p> <p>○小学生サイエンスアドベンチャーでは、ものづくりチャレンジを行い、意欲的に課題に取り組むことができた。</p> <p>○市内小学校4年生全児童がサイエンスヒルズこまつを利用して、プログラミング的思考を体験することができた。</p> <p>○理科支援員を配置により、理科の授業におけるきめ細かな指導の充実を図ることができた。</p>		評価(達成度)
				B
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
A c t i o n (改善)	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「理科の勉強が好き」と回答する児童生徒の割合が小・中学校ともに80%以上となるよう、各取組の改善・充実を図っていく。 ・サイエンスヒルズこまつでの学習が、教科の単元目標(本時のねらい)の達成につながるものとなるよう、学校とサイエンスヒルズこまつとの連携をさらに深めていく必要がある。 		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針9 伝統文化の継承、音楽活動を支援・奨励
	9-① ふるさとの文化の理解と伝承

P l a n (計画)	事業名	子供歌舞伎勸進帳上演事業	新規・継続	担当課
			継続	生涯学習課
	目標・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統文化や先人達の歴史への理解と継承 ・ 主体性、チャレンジ精神、協調性の育成 ・ 社会貢献意欲の育成 		
	アクションプラン指標	子供歌舞伎「勸進帳」上演の継続、実施、検証		
D o (実行)	事業内容	役者及び長唄・囃子方として出演する小中学生を募集し、毎年5月に開催される「日本こども歌舞伎まつり in 小松」において、小松市ゆかりの歌舞伎「勸進帳」を上演する。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	○第24回日本こども歌舞伎まつり in 小松 ・ リハーサル 令和5年5月3日（水祝） ・ 本番 令和5年5月4日（木祝）・5日（金祝） ○第25回日本こども歌舞伎まつり in 小松 ・ 出演者募集 令和5年8月下旬 ・ 役者選考会 令和5年12月16日（土） 応募者：12人 ・ 上演結団式 令和6年1月20日（土） 出演者：役者12人 長唄・囃子方28人 ・ 稽古 令和5年12月23日（土）から		
C h e c k (評価)	点検・評価	○第24回は、役者14人のうち9人が第23回の出演者で、継続的な関わりが、歴史や伝統文化への理解につながった。 ○第24回の本番直前には役者が北陸朝日放送の情報番組の生中継コーナーに出演し、主体的に勸進帳のPRを行った。		評価(達成度)
				A
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
				D 達成できず
A (改善)	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魅力の発信と出演者の確保 ・ 上演の継続に向けた指導者の負担軽減、指導体制の強化、スタッフの確保と育成 		
用語説明		用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分		方針9 伝統文化の継承、音楽活動を支援・奨励
		9-① ふるさとの文化の理解と伝承

P l a n (計画)	事業名	郷土の歴史・文化の継承と啓発活動（市史編纂事業）	新規・継続	担当課				
			継続	図書館				
	目標・目的	当市が培ってきた文化・歴史を受け継ぐとともに後世に伝えていく。						
D o (実行)	アクションプラン指標	『新修 小松市史 通史編Ⅰ・Ⅱ』の発刊・市史講座 年4回以上の開催						
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・Ⅰ期10巻を平成10年度から22年度で刊行し、Ⅱ期10巻を25年度から毎年1巻ずつの発刊を目指す。これまでに民俗、美術工芸、近世村方、産業、建築、教育、考古、近現代を発刊済み。4年度は、3年度より繰り越した『通史編Ⅰ』と『通史編Ⅱ』を発刊。 ・市史編纂普及事業として市史講座(4回)の開催。市史へんさんだよりの毎月発行を実施。 						
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・「市史へんさんだより」を毎月発行。市ホームページに掲載。 ・古文書講座開催(全3回)…講師：袖吉正樹 加能地域史研究会副代表 参加者数 1回目：33人／2回目：32人／3回目：40人 						
C h e c k (評価)	点検・評価	<p>○市史の発刊事業は前年度末で完了したが、「市史へんさんだより」の毎月発行を継続。市史「通史編Ⅰ」「通史編Ⅱ」の見どころなど多くの事項を掲載し、周知を図った。</p> <p>○市史にまつわる内容で古文書講座を3回実施し、市の歴史・文化への理解を深める機会とした。若い年代の参加もあり、古文書への興味が幅広く広がっていることが感じられた。</p>		評価(達成度)				
				A				
				<table border="1"> <tr><td>A</td><td>十分達成</td></tr> <tr><td>B</td><td>おおむね達成</td></tr> <tr><td>C</td><td>やや不十分</td></tr> <tr><td>D</td><td>達成できず</td></tr> </table>	A	十分達成	B	おおむね達成
A	十分達成							
B	おおむね達成							
C	やや不十分							
D	達成できず							
A (改善)	課題	令和4年度で市史編纂事業は完結し、原資料の管理を博物館に移管した。通史編など近年刊行した巻の注文は続いており、販売業務を円滑に進めていく。						
用語説明		用語	説明					

点検評価票

アクションプラン区分	方針11 自然と共生し、様々な難局を乗り越える人間力を育成
	11-① SDG s の推進

P l a n (計画)	事業名	SDGs推進事業	新規・継続	担当課
			継続	学校教育課
	目標・目的	子供たちが学校の特色を生かして、世界の課題を自分の課題として捉え、考え、行動していく学びを推進する。		
D o (実行)	アクションプラン指標	全小・中・義務教育学校でのSDGs推進に向け、計画、実施、検証、改善を行う。		
	事業内容	全小・中・義務教育学校が「SDGs1校1プラン」を作成・実施する。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・取組が浸透し、市内の全小・中・義務教育学校が、自校の特色を生かしたねらいとテーマを設定してプランを作成することができた。 ・自主的に考え、行動していく学びを推進するためのプランが作成され、様々な教科において、SDG s を意識した教育活動が行われた。 		
C h e c k (評価)	点検・評価	<p>○「カリキュラム・マップ」を活用し、SDG s に関する学習を教科横断的にカリキュラムマネジメントすることで、理解を深めたり、実践したりすることができた。</p> <p>○カリキュラム・マネジメントの視点を生かし、総合的な学習の時間や生活科、その他の教科の学びと関連させたSDG s 1校1プランが計画・実施された。</p>		評価(達成度)
				B
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
A c t i o n (改善)	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各校において、カリキュラムマップを活用し、探究的な学習を系統立ててさらに充実させていく必要がある。 		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針12 小松と世界をつなぎ持続可能な社会を切り拓く未来志向の活動を推進
	12-① グローバルに活躍する人材の育成

P l a n (計画)	事業名	国際都市こまつ青少年交流事業	新規・継続	担当課
			継続	生涯学習課
	目標・目的	友好交流都市と本市の中高生が相互交流を行うことで、両市の友好親善及び青少年が異文化を理解し、国際的な視野を育むことを目的とする。		
	アクションプラン指標	自国文化、他国文化理解教育の推進 参加者満足度80%以上		
D o (実行)	事業内容	友好交流都市と本市の中高生を交互に受入・派遣し、ホームステイや学校訪問、文化交流活動を通じて、グローバル人材育成と友好親善を図る。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・友好交流都市との青少年交流については、彰化市（台湾）からの派遣の意向がなく、再延期となった。 ・台湾・光仁小学校と南部中学校の交流演奏会を開催した 6月28日 南部中学校体育館 音楽交流（各校の演奏披露の後、合同演奏も2曲実施） レクリエーションによる交流 		
C h e c k (評価)	点検・評価	<p>○台湾・光仁小学校と南部中学校吹奏楽部との交流は、合同演奏にもチャレンジした。楽器の調達や合同演奏に向けた事前調整など、難しい対応もあったが、南部中学校側の協力体制もあり、当日は双方の児童生徒が練習の成果をいかに発揮し、音楽を通じた新しい交流の形が生まれた。</p>	評価(達成度)	
			B	
			A	十分達成
			B	おおむね達成
			C	やや不十分
			D	達成できず
A (改善)	課題	<p>変化する国際情勢などを踏まえながら、青少年交流を実施する体制を整えなければならない。</p> <p>令和7年度の台湾・彰化市への青少年訪問団派遣に向けて、彰化市との調整を進めていく。</p>		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針12 小松と世界をつなぎ持続可能な社会を切り拓く未来志向の活動を推進
	12-① グローバルに活躍する人材の育成

P l a n (計画)	事業名	留学生支援事業	新規・継続	担当課
			継続	生涯学習課
	目標・目的	生活の中で異文化を体験する機会を拡大し、国際的な視野をもって考え行動できる人材を育成することを目的とする。		
	アクションプラン指標	自国文化、他国文化理解教育の推進 外国語活動、英語教育の充実		
D o (実行)	事業内容	ホームステイを伴う留学生の派遣、及び受入に要する経費の一部を支援するために、補助金を交付する。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	留学及びホームステイ支援事業補助金交付実績 ・受入生（ホームステイ支援） 1人 オーストリア（令和5年4月～令和6年2月）		
C h e c k (評価)	点検・評価	<p>○受入生は、3家庭でホームステイを体験し、各家庭において日本の生活習慣に触れるとともに、地域の伝統行事や文化などを体験した。異文化交流により、相互理解を深めることにつながった。</p> <p>○留学支援やホストファミリー募集に向け、AFS日本協会小松支部が実施する留学説明会や、市の「留学及びホームステイ支援事業補助金」について、積極的な広報に努めた。</p>		評価(達成度)
				A
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
				D 達成できず
A (改善)	課題	今後も国際的な視野を持つ人材育成を目指し、適切な支援を行っていく。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針12 小松と世界をつなぎ持続可能な社会を切り拓く未来志向の活動を推進
	12-① グローバルに活躍する人材の育成

P l a n (計画)	事業名	英語教育推進事業	新規・継続	担当課
			継続	学校教育課
	目標・目的	児童生徒のコミュニケーション能力の育成と教師の指導力向上を図ることを目的とする。		
	アクションプラン指標	英語が好きな児童・生徒の割合 R3 : 75% → R6 : 85%		
D o (実行)	事業内容	English Plan Komatsu 事業		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・GTEC※(中2)、スピーチコンテスト(中2)、スピーキングクエスト(小6)の実施 ・英検費用全額助成(中3) ・市内小・中・義務教育学校へのALT派遣 		
C h e c k (評価)	点検・評価	<p>△GTECの事前・事後研修を実施し、各校での指導改善について考える機会となったが、結果を上手く活用しきれていない。</p> <p>○スピーチコンテストを通して、自分の思いや考えを表現する力を育成することができた。</p> <p>○英検費用を全額助成したことにより、力試しとして英検に挑戦する生徒数が増加した。</p> <p>○ALTを派遣したことで、英語を使ってコミュニケーションを行う場の設定ができた。</p> <p>○中学校3年生のうち、CEFR※A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合 73% (R5英語教育実施状況調査より)</p> <p>○「英語が好き」と回答した児童生徒の割合 小6 : 87.4% 中3 : 73.7% (R5県基礎学力調査質問紙より)</p>		評価(達成度)
				B
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
				D 達成できず
A c t i o n (改善)	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・現場の実態に応じたEnglish Plan Komatsu 事業の実施 ・小学校外国語科の授業の土台作り ・児童生徒にコミュニケーション能力を育むための指導の充実 ・英語科担当教員とALTのさらなる連携 		
用語説明	用語		説明	
	GTEC※ CEFR※		Global Test of English Communication 欧州言語共通参照枠	

IV 令和５年度小松市教育委員会の活動状況

1 小松市教育委員会

職 名		氏 名	備 考
教 育 長		石 黒 和 彦	
教育委員	教育長職務代理者	吉 原 慎 吾	
	委 員	北 村 嘉 章	R5.10.7 退任
	委 員	中 惣 恭 子	
	委 員	村 井 啓 介	
	委 員	浅 蔵 一 華	R5.10.22 就任

2 教育委員会議の実施状況

(1) 開催回数

定例会議：１２回

臨時会議：２回

(2) 付議件数

区分	内 容	件 数
議 案	規則等に関する事	１３件
	議会の議決を経るべき議案に関する事	１件
	教科用図書の採択に関する事	１件
	委員の委嘱等に関する事	０件
	その他	８件
	計	２３件
報 告		４０件
その他		０件

(3) 教育委員からの意見・提言

意見・提言件数 ３１件

3 総合教育会議の実施状況

平成２７年４月１日に施行された改正「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、すべての地方公共団体に総合教育会議が設置されることとなりました。本市は「小松市総合教育会議条例」を制定し、当該会議の設置を明確化しています。

(1) 総合教育会議の概要

- 地方公共団体の長（市長）が設置
- 構成員は市長及び教育委員会（必要に応じ意見聴取者の出席を要請）
- 会議は市長が招集し、原則公開

○協議・調整事項

- ・教育に関する大綱の策定
- ・教育の条件整備など重点的に講ずべき施策
- ・児童・生徒等の生命・身体のプロテクト等緊急の場合に講ずべき措置

○総合教育会議において調整が行われた事項については、構成員は調整結果を尊重しなければならない

(2) 開催日及び討議事項

回（開催日）	討 議 事 項
第1回（R 5 . 7 . 2 0）	「小松市立高等学校の活性化」について

4 教育委員が出席した主な活動内容

(1) 学校計画訪問

小学校	14校
中学校	8校
義務教育学校	1校

(2) 教育委員会、小松市等の会議・行事

- ・研究指定校発表会
- ・小松市立学校 校長協議会
- ・小松市PTA研究大会
- ・小松市社会教育賞、小松市スマイルハート賞表彰式
- ・新規採用教職員服務宣誓式
- ・各校下立志式
- ・小松市成人式
- ・勝木賞授与式
- ・小松市功勞3賞贈呈式
- ・小松市文化賞贈呈式
- ・小松市スポーツ賞授与式
- ・小学校、中学校卒業式
- ・各種スポーツ、文化大会開会式等
- ・中学校古典教室
- ・小中学生サミット